

# 第8回安平町未来創生委員会

(平成28年度3回目)

## 議 案



第3回町民まちづくり会議

日 時 平成28年8月9日(火) 午前10時00分

場 所 安平町役場 早来庁舎(第2会議室)

## 【会議レジューメ】

### 1 開 会

### 2 委員長挨拶

### 3 報告

- (1) 町民まちづくり会議の経過報告について

### 4 議事

- (1) 安平町の将来像について（第2次総合計画基本構想）
- (2) 総合計画重点プロジェクトの設定に向けた協議について
- (3) 平成27年度地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

### 5 その他

### 6 閉 会

### 3 報告 (1) 町民まちづくり会議の経過報告について

日 時	会 場	内 容
6/ 8(水) 18:30~20:30	追分公民館	<p>&lt;テーマ&gt; 10年後に安平町がどのようなまちになってほしいか考える</p> <p>第1回会議では、安平町の平成29年度以降の第2次安平町総合計画（平成29年度～38年度）の策定に向けた基本的な考え方や方向性について説明を行った。続いて、総合計画策定アドバイザー（北海学園大学経営学部教授）である菅原氏に策定におけるご助言をいただいた後に、参加者により「10年後に安平町がどのようなまちになってほしいか考える」ワークショップを行った。</p>
6/28(火) 18:30~20:30	町民センター	<p>&lt;テーマ&gt; 「目指すべきまちの姿」の実現に向けた安平町「強み」を考える</p> <p>第2回会議では、第1回会議ワークショップで出された「目指すべきまちの姿」について振り返りを行い、各ワーキンググループで「目指すべきまちの姿」の実現に向けた「安平町の強み」について話し合い、究極の目標へつながるストーリーを作成した。</p>
7/26(火) 18:30~20:30	追分公民館	<p>&lt;テーマ&gt; 具体的な将来像の方向性を確認し、実現するための戦略を考えよう</p> <p>第3回会議では、冒頭で第1回目の会議により「目指すべきまちの姿」の議論から得られた「子ども・若者・生産年齢世代が10年後も賑わうまち」になるために活用できる「安平町の強み」を政策分野ごとに行政で分析した結果と将来像の方向性を全体確認した。</p> <p>引き続き、第2回目会議で出された「まちの強み」に加え、「まちの弱み」「機会」「脅威」を記載したSWOT分析表により、行政分野ごとの戦略検討を行った。</p>

それぞれの会議結果については、別添のとおり

#### 今後の開催予定

日 時	会 場	内 容
8/30(火) 18:30~20:30	町民センター	<p>&lt;テーマ&gt; 具体的な将来像の方向性を確認し、実現するための戦略を考えよう（その2）</p>
9/27(火) 18:30~20:30	追分公民館	<p>&lt;テーマ&gt; 「10年後の目指すべきまちの姿」と実現したい各分野の方向性のまとめ</p>

#### 4 議事 (1) 安平町の将来像について (第2次総合計画基本構想)

##### 将来像の方向性

『子ども達の元気な声が地域に響くと高齢者も元気になる』『若い人がいなきゃこの町に未来はない』

町民まちづくりアンケート、団体ヒアリング、町民まちづくり会議で多く聴かれた声です。

逆に子育て世代からは『子育てを応援してくれるおじいちゃんやおばあちゃんには、いつまでも元気に活躍してもらいたい』という声が聴かれました。

地域の宝である未来を担う子どもの夢をみんなで応援しようという想いは、昔から安平町には存在し、体験学習では地域の方々が先生となるなど、地域によって子育てや教育が長年支えられています。

人づくりはまちづくり。これからも町民一丸となり子ども達に安平町の良さを伝え、明日のまちづくりを担う人材を育てていく責務が大人にはあります。

子ども達は、いずれ立派な若者に成長し、その一部は自分の可能性を信じ外の世界へと羽ばたいていくかもしれません。でも、暖かい人情により地域で教えられたことは、ふるさと愛としていつまでも心に残り、学んだことを大切にしてくれて、いつかは再び安平町に戻ってこようという気持ちにつながります。

そのために、私たちも未来に向けて準備が必要です。

まずは今いる私たちが、安心して生涯住み続けられるまちになること。

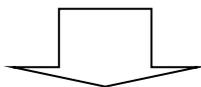
若者がこのまちではばたくことができる舞台を用意してあげること。

そして将来、立派に成長した若者と一緒に元気に活躍しているおじいちゃん、おばあちゃんになれるよう自分の得意分野を磨いておくこと。

これが安平町を次の世代へ引き継ぐための準備となります。

町民と行政が一つにまとまり、この将来像に向かってまちづくりができれば、きっと多くの生産年齢世代の共感を生み、子育てしやすいまち、住み続けたいまちとして「選ばれるまち」につながるはずです。

「チームあびら」「夢に向かってはばたく子ども・若者をみんなで応援」  
これを安平町の10年後の将来像の方向性（イメージ）とします



第3回町民まちづくり会議で示し、各グループで確認

<町民まちづくり参加者からの個別意見>

①住民生活ワーキンググループ

- ・基本的にこの方向性で良いと思う。ただ、安平町の圧倒的強みである競走馬に関連する行政分野に触れられていないことは残念。

②インフラワーキンググループ

- ・基本的な考え方、方向性や作文については非常に良いと感じる。
- ・「チームあびら」という言葉の意味を議論する必要がある。
- ・「町民と行政が一つに～」という作文の言葉の締めまでのつながりがわかりにくい。
- ・高齢者のあり方についての記載をしてほしい。  
(子どもと高齢者のふれあいに関する言葉(話し)など)

③経済産業ワーキンググループ

- ・方向性については問題ない。
- ・この方向性を補完するための施策が必要(重要)。
- ・「子ども・若者・生産年齢世代」というターゲットの言葉の定義は明確すべき。  
\* 生産年齢→15歳から64歳までであり当町のターゲットはもっと狭い。

④健康福祉ワーキンググループ

- ・方向性については問題ない。
- ・「高齢者」も含めた文言にした方が良い。

⑤子育て・教育ワーキンググループ

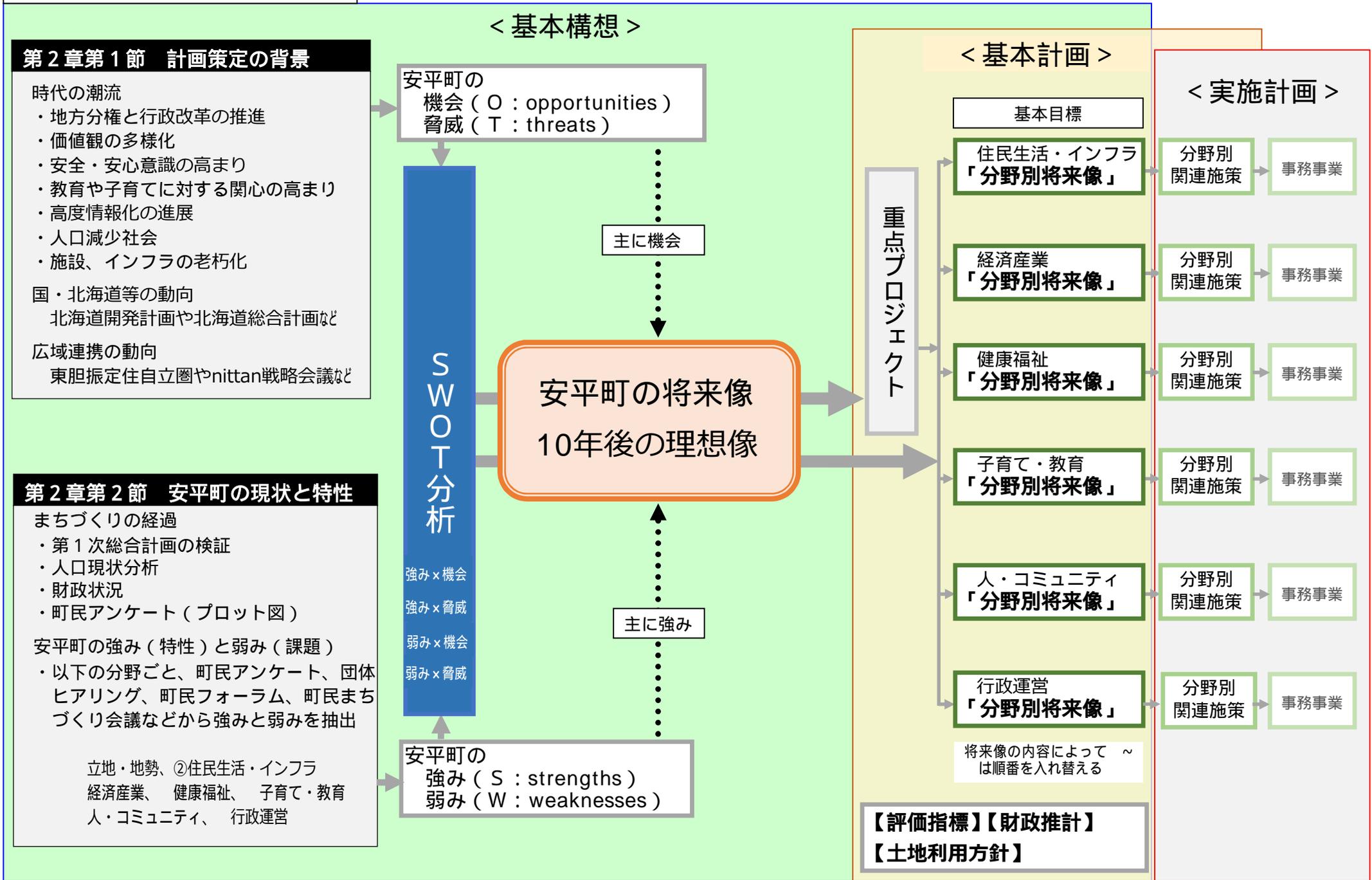
- ・方向性については問題ない。
- ・10年間の目標を設定するにあたって、教育だけでよいのか。
- ・数値目標を立てることも必要(若者世代の町外流出を防ぐなど)。

⑥行政運営ワーキンググループ

- ・方向性については問題ないが抽象的(ぼやけている)イメージを感じる。
- ・「子育て・教育」は他市町村でも取組まれる分野であり、差別化が課題であると感じる。また、住民へのPRや情報発信が不足している分野でもある。
- ・ストーリー性や具体性を示すこと重要である。

将来像の方向性 → 政策分野「子育て・教育」に重点を置くことを全体で確認し、  
キャッチフレーズ的な文言については意見を踏まえて行政側で案を作成する。

第2次安平町総合計画構成イメージ



## 過去3回の町民まちづくり会議 報告

第1回町民まちづくり会議 P 2-P14

第2回町民まちづくり会議 P14-P28

第3回町民まちづくり会議 P29-P36

# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<u>会 議</u> <del>・打合せ・協議</del>	文書番号	956
		決裁期日	平成 28 年 6 月 15 日
名 称	第 2 次総合計画策定に向けた町民まちづくり会議（平成 28 年度第 1 回）		
日 時	平成 28 年 6 月 8 日（水）18：30～20：30		
場 所	追分公民館（中ホール）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡補佐、木村主幹、笹山 会議メンバー 別紙参照 外部有識者 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信氏		
会議概要	<p><u>1 開会（進行：岡補佐）</u> ◇この会議に参加される皆様には、9 月末までワークショップ形式により 10 年後の目指すべき将来像や、将来像を実現するための分野ごとの施策の方向性を、全 5 回にわたり協議いただくこととなる。</p> <p><u>2 町長挨拶</u> ◇お忙しい中、本会議にご出席いただき感謝申し上げます。 ◇第 2 次安平町総合計画の策定に向け、「まちづくり基本条例」に基づいた町民参画を通じ、これからのまちづくりのあり方について町民の皆様からご意見を伺ってきました。 ◇向こう 10 年の安平町の目標となる「将来像」の設定は、安平町がどのようなまちづくりを進めていくのかということを示す極めて重要なものであると認識しているため、町民の皆様と共に、安平町らしい夢のある将来像が描ければと考えている。</p> <p><u>3 全体説明（岡補佐）</u> ◇総合計画策定の基本的な考えについて説明（事前配布レジュメ。資料 2～3 ページ） ◇本日の議論は、基本構想という長期的な視野に立ったまちづくりの方向性を協議していただくこととなり、決して細かい事業やアイデアを議論するものではないことにご留意いただきたい。</p> <p><u>4 第 2 次安平町総合計画策定アドバイザーの助言</u> ◇将来像の基本的考え ・具体的イメージ（理想）と安平町の強みが重なることで、将来像が生まれる。 ・将来像が明確であれば、まちの方向性や何をすべきなのかが見えてくる。 ・よそには無く、かつ優れている「強み」を選択し、考えていただきたい。 ・町民の共感・納得・共有できる将来像を設定すれば町全体として動ける。</p> <p><u>5 ワークショップ及び発表</u> ◇資料 4 ページに基づき、各 WG にて以下 4 項目についてワークショップを実施</p> <p>ワーク 1 安平町に住んでみて・活動してみたの感想 Q 1) 良いところ Q 2) 課題や改善点</p> <p>ワーク 2 10 年後、安平町にどのようなまちになってほしい？ Q 1) 私の「目指す姿」 Q 2) 皆さんのご意見など</p> <p>※意見内容については、別紙のとおり</p>		

6 閉会（岡補佐）

◇次回は、6月28日（火）18：30に開催される。

◇次回までに、安平町独自の強みをひとり5個以上考えてきていただき旨説明し、会議を終了。（資料6～7ページ）

終了 20：30

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
① 住民生活WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 災害など少ない</li> <li>◆ スポーツ施設が多い</li> <li>◆ 身近に遊びに行ける自然がある</li> <li>◆ 鹿公園の環境が良い</li> <li>◆ 騒音がない</li> <li>◆ 自然が良い</li> <li>◆ 昭和の時代</li> <li>◆ 高齢化率が高いが元気</li> <li>◆ まちの印象：商店がある</li> <li>◆ 災害が少なく暮らしやすい</li> <li>◆ 自然が豊かで健康に繋がる</li> <li>◆ 交通・JR・郵便局・足がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ インターネット・Wifiがない</li> <li>◆ 町内の統一性が薄い</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 活気がある</li> <li>◆ 協力してくれる</li> <li>◆ 気に留めてくれる</li> <li>◆ どこにも目がある</li> <li>◆ 工場があり活気・元気が見える</li> <li>◆ うまかまつりの花火がすばらしい</li> <li>◆ 両地区にある公園は良い</li> <li>◆ 工場などあり活気がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 商店に活気が感じられない</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 居住地に森林公園がある</li> <li>◆ 空港が近い</li> <li>◆ 空港や都市に近くて便利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ITインフラが遅れている</li> <li>◆ 交通の確保</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 元気なお年寄りが目立つ</li> <li>◆ 元気ハツラツとしたお年よが多い</li> <li>◆ 高齢者が元気</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもの挨拶が良い</li> <li>◆ のんびりしてる</li> </ul>	
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 文化的活動が優れている</li> <li>◆ 歴史的な部分ですぐれてる</li> <li>◆ スポーツ施設が良い</li> </ul>	
	地域コミュニティ		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 早来・追分意識がある</li> <li>◆ 早来・追分意識が強い</li> <li>◆ 早来・追分地区に壁がある</li> </ul>
	行政運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人が集まるところにWIFIが必要</li> </ul>

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆様のご意見など
① 住民生活WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然環境が崩れず土地利用されるまち</li> <li>◆ 安心できるまち</li> <li>◆ 居心地の良さが感じるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 太陽光パネルばかりが増え、景観を悪くすることがないように土地利用がされるまち</li> <li>◆ 緑化が減っている。規制も必要</li> <li>◆ 町内会の結束、自らの環境整備（除雪・除草・周りの協力）</li> <li>◆ 人と人との交わりを大切にしていけるべき</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食と観光と福祉の充実したまち</li> <li>◆ 旅人がくるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食料品等の店が少ない</li> <li>◆ 食・エナジーの地産地消</li> <li>◆ 交通が便利で素通りするのではないかな？</li> <li>◆ 若者がSNSビジネスで町を豊かにする</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地域公共交通手段・町外移動の手段が充実しているまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 車を手放した高齢者が交通難民にならない工夫が必要</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 元気な年寄りのまち</li> <li>◆ 若い人との交流が多いまち</li> <li>◆ 健康長寿のまち</li> <li>◆ 高齢者が安心して暮らせる医療・介護の充実したまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 寝たきりにならないような運動事業や医療体制を構築すべき</li> <li>◆ 在宅介護の充実</li> <li>◆ 若い人も医療は大事だが、高齢者にとっても医療機関の確保により、安心できる在宅での介護に繋がることが望ましい</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもの笑顔が絶えないまち</li> <li>◆ 小中高生が常に団地内を歩く姿が見えるまち</li> <li>◆ 他の町より1.5倍子どもが多いまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安心して子どもを産めるまちなど（貧困率）</li> <li>◆ 持続可能⇒若い人が生活でき、起業できる体制</li> <li>◆ 多様性のある子どもを見極める</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ たのしいまち</li> <li>◆ SLを中心としたまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ JRの活用。種類の違うSLを追加で配置してはどうか。（今後どのようにSLを中心とした将来的なストーリー展開をするかが重要という意見あり）</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多様性（価値観・生き方の違い）を認めるまち</li> <li>◆ 高齢者と若者が住み続けられるまち</li> <li>◆ 行政と住民が相互に信頼しあえるまち</li> <li>◆ ルールを守るまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 住民同士の助け合いがこれからも必要</li> <li>◆ 住民自らまちをきれいにキャンペーンを実施</li> <li>◆ 自治会町内会の加入率を上げる</li> <li>◆ 公共交通の強化で交通弱者をなくす</li> <li>◆ 若者が住み続けるということは、職場が必要であり、工場等の誘致に力を入れるべき</li> <li>◆ 社会常識や社会ルールを守れない住民が増加している。ルール強化が必要なのだろうか</li> </ul>
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 10年後も安平町（再合併しないまち）</li> <li>◆ 合併してよかったと思えるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 合併10周年を検証するのが必要</li> <li>◆ 合併してよかったと言われるようにしたい</li> <li>◆ 地域間の壁をなくす工夫が必要</li> </ul>

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
② インフラWG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 出かけるのに便利な町・車がある場合</li> <li>◆ 道路の整備</li> <li>◆ 大きな災害なく住み易い</li> <li>◆ 自然にあふれ住み易い</li> <li>◆ 空港に近い</li> <li>◆ 札幌に近い</li> <li>◆ 土地が安い</li> <li>◆ 人ごみが無いので暮らしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ まちに元気がない</li> <li>◆ 道路の草刈。きれいな町という印象が大切</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 酪農発祥の地</li> <li>◆ 競馬ファンを集められる</li> <li>◆ 病院が少なく都市部に出てしまう。良い先生を呼べばよい</li> </ul>	
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通アクセスが良い。空港、ICが近い</li> <li>◆ 自然が多くすみやすく、ずっと住み続けたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 水道料金が高い</li> <li>◆ 商店街に活気がない。跡継ぎがない</li> <li>◆ 公共交通が不便</li> <li>◆ 空港・港が近いが活かされていない</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 病院が少ない</li> </ul>	
	子育て教育		
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 小さい町だけドスキー場・スケートリンクがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゴルフ場の活用</li> </ul>
	地域コミュニティ		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ まちに活気がない（若い人少ない。みこしなし。町民運動会ない）</li> </ul>
	行政運営		

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆様のご意見など
② インフラWG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地の利を活かせるまち</li> <li>◆ 多種・多様な働く場のあるまち</li> <li>◆ 老後安心して生活できるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ICがあり札幌圏への通勤に利便性があることをPRし、併せて空き家対策を講じれば人口増加に寄与するのではないかと</li> <li>◆ 農業・産業のみではなく、IT関係の企業を集約できれば若い世代の取込みにも繋がる</li> <li>◆ 高齢者においては、町内公共交通に対し不便であると感じている。代わりとなる交通手段の検討が必要</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 通過されずに立ち寄られるまち</li> <li>◆ 宿泊施設がたくさんあるまち</li> <li>◆ 競馬ファンが集まるまち</li> <li>◆ みんな仲良いまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鹿公園から安平山へ回遊できるルートがあると良い</li> <li>◆ イベントなどが開催された際、宿泊施設がないことから町への恩恵を感じないことから出されたもの</li> <li>◆ 仲の良いまちにしたい。また、地域の意識が強い部分もある。早来地区・追分地区という隔たりを感じるため、一体感醸成のために交流の場などがあればよい</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安全安心なまち</li> <li>◆ 自然の美しいまち</li> <li>◆ 活気のあるまち</li> <li>◆ 子どもたちが安心して暮らせるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもが集まりやすい公園はどのようなものか判断する⇒子ども中心に考える</li> <li>◆ 整備された公園があると良い。皆が集まれる場所が必要（大島山林などせつかくありながら、整備が行き届いていないのは残念）</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 老人に優しいまち</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スポーツ施設を活かした子育ての出来るまち</li> <li>◆ 子ども・若者の多いまち</li> <li>◆ 皆で子育てするまち</li> <li>◆ サケの古里のまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高齢者の交通弱者対策に加え、子どもの部活動などの交通対策も必要</li> <li>◆ IT産業など、若者のニーズに合った企業の誘致</li> <li>◆ サケの古里⇒巣立つ子どもたちが安平町へ帰ってくることをイメージ化したもの（帰りたいと思えるまち）</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゴルフ好きが集まるまち</li> <li>◆ スポーツが盛んなまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 既に地域にあるものを活用していくべき</li> <li>◆ 町内にゴルフ場はたくさんあるものの、沖縄県のように子ども達の練習の場がないことや金銭面・指導面でのサポートがないことから、活かせる魅力である。</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 挨拶が出来るまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもも大人も挨拶が良い。</li> <li>◆ 安平町は住みやすい。</li> </ul>
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ふるさと納税がたくさんあるまち</li> </ul>	

ワークショップ 意見内容

平成28年6月8日実施

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
③ 経済産業WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 田舎らしさを感じる風景にノスタルジーを感じる</li> <li>◆ 自然豊か</li> <li>◆ 都市空港が近く便利</li> <li>◆ 鹿公園の散歩道</li> <li>◆ エゾモンガ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人と馬との距離が遠い</li> <li>◆ 商店街が寂しい</li> <li>◆ 駅前周辺の活性化が必要</li> <li>◆ 町の情報がわかりづらい。調べなければならない</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食べ物がおいしい</li> <li>◆ SLの保存状態が良い</li> <li>◆ 農業が盛んである</li> <li>◆ 農家の人々がすごい。職人技</li> <li>◆ 馬産業がとても有名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 必要とされる農業を再興させていきたい</li> <li>◆ 観光での情報発信が不十分</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通アクセスが良い</li> <li>◆ 企業立地に適地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 活用されていない場所・施設がある</li> </ul>
	福祉介護		
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもが安全・安心に暮らせる環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 雨天の日に遊べる場所が少ない</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スキー場が身近にある</li> <li>◆ スポーツ活動に対する支援が充実している</li> </ul>	
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コンパクトなまちだからこそ知り合いになれる人が多い</li> <li>◆ 顔見知りになりやすい</li> <li>◆ ○○したいという人にはとてもウェルカム</li> <li>◆ 地域の協力性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 活動の場集まる人・依頼される人が片寄っている</li> </ul>
	行政運営		

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆さんのご意見など
③ 経済産業WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 暮らす人々が役割（コミュニティから頼られる実感）を感じられるまち</li> <li>◆ 移住したいまちNO.1</li> <li>◆ 車が無くても病院・買い物に簡単に行けるまち</li> <li>◆ 時間が緩やかに過ぎるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 日常の暮らしの中で、周りの人々に必要とされる関係性がほしい。具体的には自治会や各種コミュニティにおいて、役割を持ち頼られることが生きがいに繋がる</li> <li>⇒自分の得意分野の共有。仲間づくりの見える化</li> <li>⇒必要とされることが生きがいに</li> <li>◆ 安平町への移住者はいるが、まちとの繋がりがわからない方がいる</li> <li>◆ 田舎らしさ落ち着く町並みを大切にすること</li> <li>⇒それが人柄や住環境に影響する</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 働く場所が多いまち</li> <li>◆ 多くの人を訪れる活気あるまち</li> <li>◆ 自然と食が豊かなまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 働く場所がないから人が増えない（雇用はあるがニーズとのミスマッチが生じている）</li> <li>◆ 馬で有名なので、もっとうまく町をPRできればいい</li> <li>◆ 安平町は誰が見ても第一次産業のまち。地産地消、自給自足が可能なまちを目指すべき</li> </ul>
	インフラ住環境福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 墓守りが続くまち</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもたちがあふれるまち</li> <li>◆ 子育てがしやすいまち</li> <li>◆ 安平町に子どもたちが住み続けられるまち</li> <li>◆ 第一次産業の作り手の暮らし方、仕事が見せられるまち</li> <li>◆ 学校給食で地元食材100%のまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 上士幌町のようにふるさと納税の用途を明確化するなど、政策を集中させることでアピールにもつながる。</li> <li>◆ 農家の知恵や技術は、一種のまちの魅力・強みである。それを見れる感じれる環境があればよい</li> <li>◆ 現実的には給食の全てを地産で賄うことは難しいが、その割合を増やす努力、食育の観点から子どもに食と農業のつながりを実感させることはこの町では極めて重要。</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 文化やスポーツでNO.1になれるまち</li> <li>◆ スポーツをやっている子どもの送迎があるまち</li> <li>◆ 部活動でオール安平になれるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ゴルフ少年少女の育成⇒指導必要</li> <li>◆ 追分高校にゴルフ部を！</li> <li>◆ 子ども達の育成のためにゴルフを無料にする。</li> <li>◆ 競技人口の少ないスポーツ、ゴルフなど個人競技の施設環境も充実。これを活用し、競技者に金銭面・指導面で充実させるべき</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 海外の人が訪れるまち、住んでもらえるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 町内企業においても、海外からの労働者が数多くおり、そのような海外の方の受入体制が必要</li> </ul>
	行政運営		

ワークショップ 意見内容

平成28年6月8日実施

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
④ 健康福祉WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然が豊か</li> <li>◆ 気候がgood</li> <li>◆ 日本最古の国有林が街なかにある</li> </ul>	
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食べ物がおいしい</li> </ul>	
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 町外へのアクセス</li> <li>◆ 都市に近く便利</li> <li>◆ 車が運転できなくなったときどうか？</li> <li>◆ 売ってやるというお店がある</li> </ul>	
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 声掛けがある</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 検診が良い</li> </ul>	
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スポーツ施設が多い</li> </ul>	
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 町民が協力的。耳を傾けてくれる</li> <li>◆ おすそわけがある</li> </ul>	
	行政運営		

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆様のご意見など
④ 健康福祉WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 近くで買い物ができるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤してしまう。都市に近いから住まない。都市（千歳・苫小牧）と比べると利便性に欠ける</li> <li>・将来的に車を手放したときに近場で買い物ができる環境の整備は必要</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 若い世代が働ける所があるまち</li> <li>◆ 目的を持って来訪できるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの知名度が低い</li> <li>・交流人口はあるが、通過地点として捉えられている。滞在できる目的を見出すことが必要である</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 生活がしやすいまち</li> <li>◆ 宿泊できる施設があるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会は、共働きで（働き口が）ないと暮らせない（経済的な裕福さを求める社会。人口を維持して良くするためには仕事と暮らしやすさがセットである必要がある）</li> <li>・日用品が購入可能な中型商店は必須</li> <li>・閉店が早く、急な来客時に困る</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 老人の住みやすいまち</li> <li>◆ 歳をとってもイキイキ暮らせるまち</li> <li>◆ 歳をとってもこのまちで死ぬるまち</li> <li>◆ 身近に医療機関のあるまち</li> <li>◆ 自己完結できるまち</li> <li>◆ 健康管理に安心できるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安平町で最期を迎える（自己完結）できる</li> <li>・老後も安心して楽しく暮らすための施設・環境の整備が必要</li> <li>・子ども親戚に迷惑をかけない終末＝自己完結</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 若者が住みやすいまち</li> <li>◆ 安心して仕事と子育てを両立できるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育の対応（受給関係が課題）</li> <li>・子育てボランティア⇒施設</li> <li>・働くための体制整備が必要</li> <li>・0歳から子どもを預かってもらえる所</li> <li>・要支援児への保育</li> </ul>
	文化スポーツ		
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 老人も楽しく生きられるまち（高齢者を活用する）</li> <li>◆ 地域に居場所があるまち（高齢になっても社会貢献）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の集まる場があれば高齢者との交流も可</li> <li>・集まれる場所（食を目的・作ることも）</li> <li>・世代・年代を問わず集まれる場所があると良い</li> <li>・親を呼び寄せても居場所がある</li> <li>・地域に入り込める場所</li> <li>・引きこもり防止</li> </ul>
	行政運営		

ワークショップ 意見内容

平成28年6月8日実施

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
⑤ 子育て・教育WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 空港からすぐ自宅に着く</li> <li>◆ 交通の便が良い</li> <li>◆ 都市に近い</li> </ul>	
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 馬が多い</li> </ul>	
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然が豊か</li> <li>◆ カブトムシがいる</li> <li>◆ 静かに生活ができる</li> <li>◆ 人の顔が見えて安心できる</li> <li>◆ コンパクトなので活動がしやすい</li> <li>◆ 住みよい（病院・店もある）</li> </ul>	
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プレママから子育てになるまで、保健師さんが丁寧に話を聞いてくれる</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高校が胆振・空知・石狩方面</li> <li>◆ 通学便利</li> <li>◆ 学校の人数が多くなく、相談に乗ってくれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ PTA活動。成り手不足・人選</li> <li>◆ 子ども会の統合。子どもの数が少ない</li> <li>◆ 送迎の問題があり、スポーツをやりにくい</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全国大会に行っている</li> <li>◆ 補助金がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 総合体育館がない</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人がやさしい</li> <li>◆ 町民・地域の繋がりが強い</li> <li>◆ みんな知り合い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新しい取り組みに消極的</li> <li>◆ イベントなどは昔のほうが楽しかった</li> <li>◆ 町内会役員の高齢化</li> </ul>
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 役場の窓口の方が親切</li> </ul>	

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆様のご意見など
⑤ 子育て・教育WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今くらい自然のあるまち（程よさ）</li> <li>◆ 最低限今くらい住みよいまち</li> <li>◆ 静かで都会的なまち</li> <li>◆ マイカー不要のまち（地域内完結）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人が住むために環境を破壊しないでほしい</li> <li>◆ 一通り揃ってるまちで生きている</li> <li>◆ 静かで都会的 = 垢抜けている（おしゃれ）</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 若者が活躍できるまち</li> <li>◆ スタバができるくらいのまち</li> <li>◆ ゆとりのあるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 活躍の場 = 働く場所</li> <li>◆ 同級生が都市へ流出。働く場所・産業があればいい</li> <li>◆ スタバ、企業が入ってきているまち（⇒スタバに選ばれる = 便利でおしゃれなまちの象徴）</li> <li>◆ アルテピアッツァ美唄のような文化的なおしゃれな施設</li> <li>◆ 経済的に豊かでゆとり（時間的ゆとり）を持って暮らせるまち</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 循環するまち（E礼拝、地域通過、食材）</li> <li>◆ 森や川など子どもが安全に自然と親しめるまち</li> <li>◆ 買い物に困らないまち</li> <li>◆ 経済的に豊かでゆとりを持って暮らせるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 本格的な森や川ではなく、整備された公園を想定（川に入れる。アスレチックが森の中にあるような）</li> <li>◆ 滝野すずらん公園のミニチュア版がほしい ⇒ 子どもの遊び場</li> <li>◆ 地区の拠点商店がなくなっている</li> <li>◆ 地元で買い物しましょう。町民意識</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ じいちゃん・ばあちゃんが元気で働いているまち</li> <li>◆ 生きることを楽しめるまち（AIに勝てる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 20年後今の仕事なくなる。ロボットに仕事を取られていいのか？ 生きがいのあるまち。楽しめるまち</li> <li>◆ 元気で働く⇒健康に繋がる</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 外で元気に子どもたちが遊んでいるまち</li> <li>◆ 保育園から中高が一緒のまち（教育一貫性）</li> <li>◆ 教育と子育てで選ばれるまち</li> <li>◆ 子どもの放課後の活動が充実しているまち</li> <li>◆ 子どもがあふれるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 昔は道路で、外で遊んでいた</li> <li>◆ 子どもの姿が見えるまち</li> <li>◆ 保育園と中学校が連携し、生徒が園児の面倒をみるなどの一体となった取り組みにより、育ちの連続性を生む</li> <li>◆ 三世代がうまくいくと皆が生きる</li> <li>◆ 子育ては力を入れて人口が増えている事例がない ⇒ 学力・体力に強みのある小中学校・園があると人が流れてくる</li> <li>◆ 学校帰りに歩いていける場所があればいい</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもたちが夢を持てるまち</li> <li>◆ オリンピック選手をたくさん出すまち</li> <li>◆ 子どもたちの長所が伸ばせるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全道・全国区のスポーツは多いことから、オリンピックを目指す選手のサポートなど</li> <li>◆ いいものを見る。聞ける。感じれる。 ⇒ 一流の人が体感できる。目標ができる。本物を見せて夢が持てる</li> <li>◆ 競技の選択肢が広がる環境があると子ども達が伸びる。一芸に秀でてる人として育てば。</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高齢者と子どもの交流があるまち</li> <li>◆ 町内イベントが盛り上がるまち</li> <li>◆ 助け合えるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 通学時に声をかける</li> <li>◆ うまかまつり以外にも盛り上がるイベント・祭り ⇒ 縮小している</li> </ul>
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ （安）心が（平）穏やかになるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ これは外せない。</li> </ul>

ワークショップ 意見内容

平成28年6月8日実施

ワーク 1			
WG	種別	安平町に住んでみて・活動してみたの感想	
		良いところ	課題や改善点
⑥ 行政運営 WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然が豊か</li> <li>◆ 空がきれい</li> <li>◆ 田舎ならではの静かな環境</li> <li>◆ 平和</li> <li>◆ 優しい自然</li> <li>◆ 静か</li> <li>◆ 他県から帰るとホッとする</li> </ul>	
	産業観光	◆ 大きな商業施設が近く、買い物が便利	
	インフラ住環境	◆ 大きな意味でアクセスが良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ バス・JRに関しては不便</li> <li>◆ インフラを充実してほしい（ネット環境）</li> <li>◆ 徒歩での買い物はできない</li> </ul>
	福祉介護		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 公共交通手段の工夫が足りない</li> <li>◆ JRの減便</li> <li>◆ 交通機関が整っていると外にPRできる</li> </ul>
	子育て教育		◆ 外で遊ぶ子どもをみるのが少なくなった
	文化スポーツ	◆ スポーツ施設が充実している	
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 知り合いが増える</li> <li>◆ 人があたたかい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安平町の知名度が低い</li> <li>◆ 人々の動きが少ない</li> </ul>
	行政運営		

ワーク 2			
WG	種別	10年後、安平町にどのようなまちになってほしい？	
		私の「目指す姿」	皆様のご意見など
⑥ 行政運営 WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 若い家族・世帯がたくさんいるまち</li> <li>◆ 若者達の賑わうまち</li> <li>◆ ほっとできる景色が残っているまち</li> <li>◆ ここでよかったと思えるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が集まる。子どもが増える ⇒高齢者との繋がりが出来る</li> <li>・町の将来を担う若年層が、町内に残ってもらうことが、及び学生や就職で転出して結果的に戻ってきてもらうことが重要</li> <li>・今いる若者を逃がさない ⇒子どもの遊び場の確保（子育て世代） ⇒人がいるから出来ることも増える</li> <li>・都会から戻り、自然や町並み等落ち着く環境がある</li> </ul>
	産業観光	◆ 商店街の復活したまち	・賑わいがある（賑やかだったころの）商店街になればという期待がある
	インフラ住環境	◆ 通信に困らないまち	・ネット環境が未だ整備されていない地域もある（富岡地区）
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安心して死ねるまち</li> <li>◆ 公共交通機関の充実したまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安平町内で最期まで穏やかに過ごせるまち</li> <li>・交通網整備が必要（車が使えない人のため）</li> <li>・交通網が今は課題 ⇒既に流出している</li> <li>・アクセスが便利で他で仕事ができる町内交通網の充実</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもが安心して遊べるまち</li> <li>◆ しっかりとした人間力の育つまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者は、子どもが安心して遊べる場所があるなどを条件としてまちを選択しているのではないか</li> <li>・子どもが望む学校環境・公園を整備する ⇒外にPRすれば人が増える</li> </ul>
	文化スポーツ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設はあるが、人口減少によりスポーツ少年団が活動できない</li> <li>・少年団合併できない⇒移動手段がない</li> </ul>
	地域コミュニティ	◆ 町民の手づくりが見えるまち	
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人口が減っていないまち</li> <li>◆ 持続的行政運営ができるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・借金がないまち ⇒安心できるまちづくりが出来ない ⇒無駄な事業（箱物）はいらない ⇒新しいものを作る必要性はない</li> </ul>

- 自己紹介を兼ねて、安平町に住んでみて（活動してみても）の感想をそれぞれメンバーが発言
- 10年後の安平町の目指すべきまちの姿をメンバーで検討



ご意見で出された「目指すべきまちの姿」を分析すると3つに分類できます

### ①究極の目標(主なもの)

- ◇安全安心なまち ◇生活しやすいまち ◇たのしいまち ◇活気のあるまち ◇ここによかったと思えるまち
- ◇生きることを楽しめるまち ◇(安)心が(平)穏やかになるまち ◇経済的に豊かでゆとりを持って暮らせるまち

### ②より具体的な目標(主なもの)

#### [若者・子育て・教育]

- ◇若い家族・世帯がたくさんいるまち ◇若者が住みやすいまち ◇若者が賑わう・活躍するまち
- ◇子ども・若者の多いまち ◇安平町に子どもたちが住み続けられるまち ◇しっかりとした人間力の育つまち
- ◇子どもたちが夢を持てるまち ◇子どもたちの長所が伸ばせるまち ◇皆で子育てするまち
- ◇安心して仕事と子育てを両立できるまち

#### [福祉・高齢者]

- ◇じいちゃん・ばあちゃんが元気で働いているまち ◇歳をとってもこのまちで死ねるまち ◇老人に優しいまち
- ◇老人も楽しく生きられるまち(高齢者を活用する) ◇地域に居場所があるまち(高齢になっても社会貢献)
- ◇高齢者と子どもの交流があるまち

#### [地域コミュニティ]

- ◇暮らす人々が役割(コミュニティから頼られる実感)を感じられるまち
- ◇多くの人を訪れる活気あるまち ◇文化やスポーツでNO.1になれるまち ◇みんな仲良いまち

### ③目標を達成するための手段に属するもの(主なもの)

#### [生活一般]

◇通信（ネット環境）に困らないまち ◇買い物に困らないまち ◇公共交通機関の充実したまち ◇高齢者が安心して暮らせる医療・介護の充実したまち ◇多種・多様な働く場のあるまち ◇若い世代が働ける所があるまち

#### [循環型社会の構築]

◇循環するまち（I礼が、地域通貨、食材） ◇第一次産業の作り手の暮らし方、仕事が見せられるまち

#### [コミュニティ]

◇挨拶が出来るまち ◇町内イベントが盛り上がるまち ◇町民の手づくりが見えるまち

#### [観光交流]

◇通過されずに立ち寄られるまち ◇宿泊施設がたくさんあるまち

#### [子育て・教育]

◇スポーツ施設を活かした子育ての出来るまち ◇保育園から中高が一緒のまち（教育一貫性）



①と②の目的でまとめると

夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ

元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持って生き活きと生活し

町内外の人々の交流によって活気をつくり

暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって

生きることを楽しめるまち ここに住んでよかったと思えるまち が実現する

こんな大きなくりのイメージとなります

夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ  
元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持って生き生きと生活し  
町内外の人々の交流によって活気をつくり  
暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって

**「生きることを楽しめるまち」「ここに住んでよかったと思えるまち」**

第1回ワークショップを踏まえて…

特に高齢者を支えるためには、若い人に住んでもらわなければならない。

「おじいちゃんおばあちゃん」が元気で働き続ける。  
ずっと地域と一緒に（若者・子どもと高齢者が）仲良く暮らせることが望ましい。

若者・子どもがいて、高齢者が生き生きすることで地域が活性化することが前提にあって

**「生きることを楽しめるまち」「ここに住んでよかったと思えるまち」**

安平町の何を活用したら、これを実現できるのでしょうか？（安平町の「強み」「可能性」）

札幌・千歳・苫小牧とは異なる「強み」を一緒に探するのが2回目のワークショップです

（ご注意）若者・子どもに結びつけて考える必要はありません。

### ①住民生活WG

- ・ 地産地消ができるシステムを作らないと外に流れるばかり。町内に還元させなければならない。特区を利用した工場誘致の可能性はないか？
- ・ 文化スポーツ分野で、SLで盛り上がり、今日に至るまでの過去の歴史の振り返りは良いが、未来にどう活かすかストーリーが課題。
- ・ 地域コミュニティについては、新しく転入してきた住民にゴミ出しなどのルールが浸透していないという意見があり。どのように解決するかについて、行政に頼るだけでなく、町内会などで呼びかけるという話も出てきた。



### ②インフラWG

- ・ 公園あるだけではなくて皆が集える公園があるといい。
- ・ 永く住めるまち。ただ通りすぎるようなまちではなく長く住めるまち。
- ・ 巣立つ子どもたちがまた帰ってくるまちが良い。人口減少に歯止めがかかる。



### ③経済産業WG

- ・ 暮らす人々が役割を感じられるまち。周りの人たちから必要とされることが重要。生きがいややりがいを感じられることに繋がる。
- ・ 移住したいまちNO1。生活をする上でこのように選ばれるということは、環境が整っていると認められることである。
- ・ 働ける場所が多くなるまち。現在、苫小牧や千歳に働きに出る方が多いが、地元で働くことで人が増え賑やかになる。
- ・ 多くの人を訪れる活気あるまち。馬が非常に有名だがもっとPRすべきではないかという意見もあった。
- ・ 文化スポーツでNO1のまち。ゴルフ少年少女の育成について話された。国内外で優勝できる選手を育成したい。沖縄でやっているようなゴルフ場の空いている時間を利用できればいいのではないかと。



#### ④健康福祉WG

- ・ 住み続けられるまち。これには病院・福祉サービス・商店が必要。小さいまちにおいて商店がなくなるのは住み続けるのも厳しくなる。
- ・ 特に高齢者を支えるためには、若い人に住んでもらわなければならない。共働きをしないと暮らしていけない時代。0歳から預けられる場所が必要であり、シングルの方もいることから、病児保育というのも若い方が働きやすい環境として重要。
- ・ 企業がやってくるには人口1万人いないとやってこないという話から、目標として掲げてはという意見もあった。



#### ⑤子育て教育WG

- ・ スターバックスが出来るくらいのまち。スタバを象徴と捉えて、働くだけじゃなくゆとりのある文化的なところにも目を向けられたらということが出された。
- ・ 子育て教育グループからは意外にも「おじいちゃん・おばあちゃん」というキーワードが多く出た。「おじいちゃんおばあちゃん」が元気で働き続ける。ずっと地域と一緒に仲良く暮らせることが望ましい。
- ・ 子どもに関することも出た。その中で子ども（幼児期や小中学校だけでなく）の放課後の充実が考えられた。そこで子ども達がいろんな夢を持ち、オリンピックに出ることもあるかもしれない。



#### ⑥行政運営WG

- ・ 一番多かったのが、若い人たちがたくさんいるまち。子どもたちがたくさんいて賑わうまち。
- ・ 若い世代などを含め最終的に人口が減っていかないまちに行き着くのではないかという話になった。
- ・ これをクリアするには、福祉や買い物、交通アクセスなどの問題・不安を持っている高齢者がたくさんいるので安心して死ねるまちが目標ではないか。
- ・ この先に必要なのは町民の笑顔。
- ・ 町民の笑顔が外からまた新しい町民の笑顔を呼ぶというような10年後を考えていきたい。



# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">会 議</div> <span style="margin-left: 10px;"><del>・ 打合せ</del></span> <span style="margin-left: 10px;"><del>・ 協 議</del></span>	文書番号	1247
		決裁期日	平成 28 年 7 月 11 日
名 称	第 2 次総合計画策定に向けた町民まちづくり会議（平成 28 年度第 2 回）		
日 時	平成 28 年 6 月 28 日（火）18：30～20：30		
場 所	町民センター 2 階 中集会室		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡補佐、木村主幹、笹山 会議メンバー 別紙参照		
会議概要	<p>1 <u>開会及び前回の振り返り（進行：岡補佐）</u></p> <p>◇第 1 回目は「安平町に住んでみて、活動してみたの感想」「安平町の目指すべき姿」についてワークショップを実施し、安平町の将来像を出し合っていた。第 2 回目は「目指すべきまちの姿」の実現に向けた安平町の「強み」を考えていただく。</p> <p>◇明確な将来像の設定にあたり、前回意見を大まかにまとめると以下のとおり。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ、元気な高齢者が社会に</p> <p style="text-align: center;">貢献しながら生きがいを持って生き生きと生活し、町内外の人々の交流によって</p> <p style="text-align: center;">活気をつくり暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって</p> <p style="text-align: center;">生きることを楽しめるまち。ここに住んで良かったと思えるまち。</p> </div> <p>⇒実現するには、安平町の今後 10 年を支える、子ども、若者、生産年齢世代の方がいることが前提であり、かつ、どのように取り込んでいくかがポイントとなる。</p> <p>⇒自分たちの世代だけを考えたまちづくりではなく、様々な世代が共存しながら役割を担うまちづくりが必要と言える。</p> <p>2 <u>ワークショップにあたっての共通認識について（岡補佐）</u></p> <p>◇前回出された将来像を実現させるためには、効果的なスイッチ（安平町の独自の強み）を押すことが必要である。</p> <p>◇周辺自治体と比較し、安平町の将来を考えた場合  <b>小規模かつ特定の領域で独自の市場（地位）を築いていくことが求められる。</b></p> <p>◇目標が明確であることにより、皆さんが納得したまちづくりにつながる。</p> <p>⇒これらを念頭に、第 2 回目のワークショップに臨んでいただきたい。</p> <p>3 <u>ワークショップ及び発表</u></p> <p>◇当日レジュメ 2 ページに基づき、各WGにて以下テーマについてワークショップを実施</p> <p>◆私が考える安平町の強み</p> <p>Q 1) 強み      Q 2) どういうところが強みか？他より何が優れているか？</p> <p>※前回の宿題としていたもの。</p> <p style="text-align: center;">第 2 回開催に際し、一人 5 個以上考えてきていただいたものをグループ内で発表</p>		

◆究極の目標へつながるストーリーの作成

子ども・若者・生産年齢世代取り込みに活用できる強みを3つ選択し、連動していくストーリーを考える。

※意見内容については、別紙のとおり

4 閉会（岡補佐）

◇次回は、出された「まちの強み」を基に、職員において内容検討を行い将来像の方向性（案）を示す。

◇示した方向性について、各ワーキンググループ及び分野ごとの視点からワークショップを行っていただく流れである。

◇次回会議は、7月26日（火）18：30に開催される旨説明し終了。

終了 20：30

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どういところが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
① 住民生活WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 空港に近い</li> <li>◆ 競争馬の名産地</li> <li>◆ 地理的に恵まれた自然の豊かさ（健康的なまち）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 馬産地は日高にもあるが、空港に近い牧場としては大いに強みである</li> <li>◆ 役場・銀行においても待たずにすぐ対応してくれる</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元民が知らないロケ地・観光・人的資源が多い</li> <li>◆ 農畜産物の種類が多い</li> <li>◆ 馬のほか眠れる観光資源がある</li> <li>◆ 小さなまちだが大きな企業がある</li> <li>◆ 観光資源に恵まれている</li> <li>◆ 鉄道文化と遺産の残るまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多様な農畜産技術者がいる</li> <li>◆ カマンベールチーズは世界に誇れる</li> <li>◆ 地域の雇用を生み出している企業が張り付いている</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 生活環境がいい（駐車場渋滞、行列がない）</li> <li>◆ 地場産物が豊富で良品が多い</li> <li>◆ 空港に近い地域の割には地価が安い</li> <li>◆ 交通の便が良い</li> <li>◆ 北海道らしさが味わえるところ（道外・海外から）</li> <li>◆ 空港に近い地域の割には騒音に悩まされない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 4つの地区JRとR234が繋がっている。急行特急が止まる駅舎</li> <li>◆ ライフラインの確保、都市部への移動が良い</li> <li>◆ 人口に対して生活インフラが整っており、のんびり豊かに生活できる</li> <li>◆ 種類多く良質な農産物があるんで全国へ売り込め</li> <li>◆ 冬は雪が少なく夏もあつい。四季それぞれを満喫できる</li> <li>◆ ひとつのまちに4つの駅がある。ほぼ縦になっている</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食べ物おいしい（メロン・チーズ）</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 官民連携の子ども園がある</li> </ul>	
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 文化活動が盛んなまち</li> <li>◆ スポーツに精通した人が多い</li> <li>◆ スポーツ施設が整っている</li> <li>◆ 競技経験者が多い</li> <li>◆ スポーツ・文化施設が充実しており健康で心豊かに過ごせるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 指導者が熱心に指導してくれる。</li> <li>◆ スポーツ文化、町民の体力向上、健康維持に向けて非常にバランス良く整っている</li> </ul>
	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 活動を通して情報の場となりつながりがある</li> <li>◆ 公共施設の利用を図り憩いの場となっている</li> <li>◆ SLなどの専門的知識を持っている人がいる</li> <li>◆ 活気のある人が多く、土地柄自然がある</li> <li>◆ 地域連携が強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 率先してボランティアに取り組み人が多い</li> <li>◆ 地域独自で高齢者対策を実施している</li> </ul>
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 政策への反映が早い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 町民からの意見から政策への実施率が高い</li> </ul>

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どこが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
② インフラWG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ エアポート・フェリーポート両方に近い</li> <li>◆ 空港、インターが近い</li> <li>◆ ときわ公園や鹿公園があり子ども達が遊べる自然環境がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 追分インターが市街地より近い。札幌や同等方面に近い</li> <li>◆ 空港と港の両方に近いことが強み←苫小牧・千歳にはない</li> <li>◆ 宿泊施設が少ないのが課題</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安平町遠浅は日本のチーズ発祥の地である</li> <li>◆ 空港、港から近いスキー場がある</li> <li>◆ 安平川</li> <li>◆ 瑞穂ダム周辺の農業風景</li> <li>◆ 馬</li> <li>◆ 牧歌的な風景</li> <li>◆ 牧場の風景が見られる</li> <li>◆ ゴルフ場が多い</li> <li>◆ 広大な農地がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安平川。サクラマス卵放流・稚魚放流</li> <li>◆ 空港に近いところに町内で5つのゴルフ場がある。連携することで強みとなり得る</li> <li>◆ チーズ発祥の地であり強みにできないか</li> <li>◆ 町内のキャンプ場へ札幌圏から自然を求めて来町している</li> <li>◆ 空港から近い。北海道らしい風景は日高よりも強みがある</li> <li>◆ ダムを活用し、釣り・カヌーなど人が集まる魅力がある</li> <li>◆ 千歳から日高へシーニックバイウェイの流れになれる要素がある</li> <li>◆ 瑞穂ダム周辺での農家レストランに可能性がある</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安価な土地。近郊ベッドタウン</li> <li>◆ 都会のかたが来ていただける市民農園（作付来町、途中はインターネット中継、収穫時に来町）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 通勤圏となり得るという立地は強み</li> <li>◆ 安価な土地で、札幌圏のベッドタウンとする</li> </ul>
	福祉介護		
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コミュニティスクール学者融合ふると教育による地域一体となった教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道内でもまだ行われていないコミュニティスクールがある→地域と一体となっている</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄道マニア</li> <li>◆ スポーツ文化活動で全道全国大会に出る状況にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄道マニアが全国から集まるまち。現在も追分地区に結構来ている。道の駅ができれば、町に集まる</li> <li>◆ SLの整備で移住者を呼びこむことが出来ている</li> <li>◆ SLがきれい。国鉄OBから話が聞ける。管理をしていること</li> </ul>
	地域コミュニティ		
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政が身近なまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政と町民の距離が近いのは、苫小牧や千歳に負けない強み</li> </ul>

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どこが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
③ 経済産業WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 公共施設が充実している（キャンプ場、プール、野球場、スキー場など）</li> <li>◆ 都市部に近い</li> <li>◆ 中小都市に近い小田舎→田舎暮らしと都会暮らしのバランス</li> <li>◆ 北海道らしい豊かな自然がある</li> <li>◆ 騒音が少ない</li> <li>◆ 田畑から酪農・畜産・馬産地と大地の風景が豊か</li> <li>◆ 恵まれた自然環境→放牧地、丘陵地帯</li> <li>◆ なだらかな丘に咲く菜の花</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 丘に菜の花がある姿が格別→平坦の十勝みたいじゃなく</li> <li>◆ 買い物、病院に行くのも選択肢が多い→札幌、苫小牧、千歳</li> <li>◆ 良好な自然環境</li> <li>◆ 都市の便利さと商店の活性化とのバランスが難しい</li> <li>◎ 農家が忙しさを自覚する。</li> <li>◎ 弱みを強みに</li> <li>◎ ターゲットを絞る</li> <li>◎ 人が集まる仕組み→商売に繋がる→人がいると経済に繋がる</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全国有数の馬産地</li> <li>◆ 早来雪だるま小包発祥の地</li> <li>◆ 異業種の会の連携による支援</li> <li>◆ 日本で最も強い馬達がいる牧場がある</li> <li>◆ 世界に誇る種馬がいる。G1馬が多い</li> <li>◆ 農業生産者が近くに住んでいる</li> <li>◆ 「農業の教育力」→食育、ふるさと教育、健康、グリーンツーリズム</li> <li>◆ 「農業の雇用力」→就業人口が最も多い。稼ぐ力も高い</li> <li>◆ 「農業の食料供給力」→学校給食、農直、加工品→働く場所の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 異業種の会→100社の集まり。インターンシップ事業</li> <li>◆ 選択肢のある第一次産業（多様な農業形態）</li> <li>◆ 農業といっても選択肢を多く用意できる→酪農、畑作、有機など</li> <li>◆ 将来性のある自然エネルギー産業</li> <li>◆ 世界に通じるだけの素質・血統を持っているところ。それだけすばらしい血統を持っているの組み合わせは、他では真似できない</li> <li>◆ 菜の花は加工品等の6次産業化も広がる可能性がある</li> <li>◎ 魅力ではあるが、結びつける仕組みが必要→馬は扱いが難しい</li> <li>◆ 馬にドラマあり←人のドラマ ⇔ ◎ 反面馬の扱いに係る不安を取り除くことが大切</li> <li>◎ 小田舎の魅力をもって活かしては？→バス運行（観光面）。東京の奥多摩的</li> <li>◎ 今ある風景を残すことが大事→ノスタルジック</li> <li>◆ 種馬の管理は安平町にしかない</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 千歳空港・苫小牧港・追分町IC等交通に恵まれている</li> </ul>	
	福祉介護		
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 幼小中高の連携が作りやすいサイズである</li> </ul>	
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 馬のジャンル分け→例）鉄道、乗り鉄、撮り鉄</li> <li>◆ 馬産地といっても観光だけでなく、育成・雇用を含めてトータルで関わる仕組みが必要</li> <li>◆ ゴルフ場（町内5ヶ所）価格帯のバリエーションが豊富</li> <li>◆ 周りにゴルフ場がたくさんある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 種牡馬の育成システム→世界的にも珍しい</li> <li>◆ ゴルフ場→小さい子ども携わっていくことが大事。個人競技として取り組みやすい</li> <li>◆ 社台グループは世界に通用する→他者が真似できない水準</li> <li>◆ ゴルフ場。関わる事が出来る（子どもも含め）</li> <li>◎ 少子化でも出来るスポーツを支援する仕組み</li> <li>◎ やり方によっては、小さい子どもでも手軽に携わることが出来るようになると思う</li> <li>◎ 子どもの数が減少していく中、個人で出来るスポーツの中でも競技者が少ない</li> </ul>
	地域コミュニティ		
	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政・周囲の人々が、活動や何かカタチにしたいと思っている人を応援してくれる</li> </ul>	

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どういうところが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
④ 健康福祉WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 住宅地が他市町村より安い</li> <li>◆ 都市圏への移動が楽。交通の利便性が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通アクセス30分圏内</li> <li>◆ 特急が止まる。交通の利便性</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然豊かで農・畜・林など多種多様な素材がある</li> <li>◆ こだわり商品はある</li> <li>◆ 日本屈指の丘陵・田園風景</li> <li>◆ 町内沿線にJR駅が4つ</li> <li>◆ チーズの製造</li> <li>◆ 歴史的な名馬が多数存在する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 景観がすばらしい</li> <li>◆ 農畜産物などの素材の良さ</li> <li>◆ 空港からの牧場の景色が良い</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 空港、JR、高速道路、フェリーなど田舎なのにすべてに近い</li> <li>◆ ほぼノンストップで行き来できる空港がある（タクシー料金もそこそこ）</li> <li>◆ 町内が狭いので移動はできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通の利便性が良いのに土地の値段が安い</li> <li>◆ 安平町に住みながら通勤可能</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高齢者が元気</li> <li>◆ 福祉サービスや施設が充実している</li> <li>◆ 入院施設のある病院</li> <li>◆ 町民の健康管理が充実</li> <li>◆ 健康づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 特養が強み</li> <li>◆ 施設は充実</li> <li>◆ 自己完結ができる</li> <li>◆ 在宅サービスが連携し、在宅で死ねる</li> <li>◆ 医師が4人（常勤医師）</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 大学とは望まないが、アカデミズムの環境と義務教育以上の高校がある</li> <li>◆ 子育て環境が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 待機児童がない</li> <li>◆ 高校がある</li> <li>◆ 福祉施設・スポーツ施設が充実</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鹿公園、キャンプ場の整備</li> <li>◆ 通年利用可能な運動施設がある</li> <li>◆ スポーツ施設が充実している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 野球場、プール、スキー場、スケート場、ゲートボール場、サッカー場、キャンプ場</li> </ul>
	地域コミュニティ		
	行政運営		

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どうところが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
⑤ 子育て・ 教育WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ シングルの人でも生活しやすい</li> <li>◆ コンパクトにまとまっていて適当に手厚い</li> <li>◆ 中古住宅リフォーム（おしゃれ感）</li> <li>◆ 意外にまとまりやすい。同じ方向を向いてくれる</li> <li>◆ 空き家（安く、自由度）</li> <li>◆ 自然エネルギー街（太陽光発電）①家の発電②電気カー ※クリーンなマチのイメージ</li> <li>◆ 適当に田舎、適当に道央、適当に便利</li> </ul>	
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元企業と地元の高校が連携し、就職支援を行っている</li> <li>◆ 教育（小さい）学社融合、企業連携</li> <li>◆ 進路選択（高校）が広い</li> <li>◆ 教育環境（学校立地）の良さ</li> <li>◆ 企業・町民大運動会</li> <li>◆ 幼保小中高の一貫性</li> <li>◆ 学社融合、企業とタイアップ</li> <li>◆ 競走馬（社台G）①乗馬体験（観光）②乗馬教室（学校） ⇒ オリンピック</li> <li>◆ 人情（寅さん、人口少ない）</li> <li>◆ チーズのまち①自家製チーズ②学校体験授業</li> <li>◆ ヘビ・キツネ・クワガタ・オニヤンマ（本物の自然）</li> </ul>	
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スポーツ人口少ない（集中的）</li> <li>◆ スキー・スケートができる環境</li> <li>◆ パークゴルフ・ゴルフ場</li> <li>◆ スポーツ（全国大会）</li> <li>◆ 少人数スポーツ</li> <li>◆ スケート・ホッケー・カヌー・乗馬・テニス</li> </ul>	

WG	種別	私が考える安平町の強み	
		強み	◆：どういところが強みか？ 他より何が優れているか？ ◎：その他ご意見
⑥ 行政運営WG	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自然環境が豊か</li> <li>◆ 災害が少なく気象条件にも恵まれた立地条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 札幌や千歳空港から至近にありながら、環境が豊富</li> <li>◆ 年間を通して温暖な気候、水害や大雪、地震などの災害も少ない。</li> <li>◎ 自然が豊か、地理的条件・交通アクセスの良さを売りにした「暮らしやすさ」を広くPRする。</li> <li>◎ 安平町は住みやすい町ということを情報発信する必要がある。</li> <li>◎ 来てもらう手段として何をしなければならぬのかを考える必要がある。</li> <li>◎ 窓口を一本化し良いものをひとつにまとめて情報発信する（全てに連動する）。</li> </ul>
	産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 名物・名産品等が豊富で美味しい。</li> <li>◆ 多種、多様な農業（地産地消が可能でPRになる）</li> <li>◆ 南早来変電所の世界最大規模の蓄電システム。国内最大級の太陽光発電。世界的にも名馬を多数算産している社台スタリオンの組み合わせを保有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 安平町独自の農業を考えることが産業につながる。</li> <li>◎ 農産物に安平町独自の付加価値を付け、良いものをさらに良いものにしてPRする。</li> <li>◎ 安平町は農業を営みやすく新規就農がしやすいので、それで人を呼び込む。更に、6次産業化を図り、他産業に波及させていくことで、雇用の場が広がる。</li> <li>◎ 農家自らが周辺の環境整備を行っていることは素晴らしい。</li> <li>◎ 立地企業が安平町を選んだ理由を知ること、今後の企業誘致施策につなげることができるのでは。</li> <li>◎ 仕事を選択する余地がある。</li> <li>◎ 一時間半の通勤時間はそれほど苦にならない。</li> </ul>
	インフラ住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 他地域からの交通アクセスの良さ。</li> <li>◆ 立地（中核都市に近い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 雇用機会の増大につながる。都市部に近い（労働者が多い）複数の強みが連動すると良い</li> <li>◎ 交通アクセスが良いことで、入って来やすい半面外へ出やすい。</li> </ul>
	福祉介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 健康管理に保健師さんが大活躍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安平町は保健師さんが、家庭訪問等、きめこまやかな対応をしてくれている。</li> <li>◆ ストーリー的な組み立てを連動させることが必要。細かい部分（保健師さん）が大切</li> <li>◆ IターンやUターン者へのPRになり得る（不安要素を取り除く）</li> </ul>
	子育て教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 幼小中の全てにコミュニティスクールがある（学校と地域のつながり）</li> <li>◆ 学校が地域の方たち（年齢問わず）の協力を必要としている（高齢者もいきいき出来る）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学校が地域を必要としている（安平町にはその環境がある）。</li> <li>◎ 子育てのサポートが充実している</li> <li>◎ 子育てを安平町でという方をターゲットにする。</li> <li>◎ 子育て中の母親は話し相手がなく1人になりがちだが、そこをケアするのが大事</li> <li>◎ ふるさと納税による寄付者に対して様々な良い要素をPRする。</li> <li>◎ 安平町を紹介する本を作る。</li> </ul>
	文化スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スポーツ施設が充実している割には利用率が少ないので活用するチャンスがたくさんある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 知ってもらうためにはどうするのが欠けている。</li> </ul>
	地域コミュニティ		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 空き店舗を利用したミニデパート。そこに行けば薬もあり何でも揃っている。デマンドバスで行く足湯があってコミュニティの場になる。</li> </ul>
	行政運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 財政が良くなれば全て叶うのでは</li> </ul>
	その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 良いところはありますが、強みは見当たらない。</li> <li>◎ 弱みを出し合った方がいいのではないか。</li> <li>◎ 何がネックなのか。なぜ企業が来ないのか。改善点を議論してはどうか。</li> </ul>

## ①住民生活WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

競走馬の名産地で空港が近い  
ため観光地となる。また、産業  
としても秀逸で若者の就職先とな  
っている。



農畜産物の種類が多く良質である  
ため、全国へ売り込める。



人口に対して生活インフラが整っ  
ている。  
(駅が4つある/道路が整っている/  
役場、銀行で待たなくてよい)  
そのためゆとり豊かに生活できる。



◇競走馬の名産地で空港が近い  
ため観光地となり、良質な農畜  
産物と合わせると大観光地とな  
る。

◇産業として成り立っているため  
若者の就職先となっている。



**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

◆安平町の良い点はたくさんある。

しかし、安平町の町民がすべて知っているかという  
とそうでもない。

良い点をもっと町民が認識、集約、発信することが重要である。

◆日中町外から安平町に働きにくる方が多く、  
昼夜間人口比率が高い。

そういった方は、安平町へは職場にくるだけの  
体験であるため、安平町全体を体験してもらい  
移住マインドを持ってもらうことが重要である  
と思う。



## ②インフラWG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

### 立地

空港、港  
インターチェンジ  
札幌圏



### 魅力的な資源

スキー場、スケート  
馬、ゴルフ場  
SL、風景

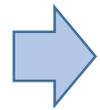


地域と連携した  
学社融合ふるさと教育



◇苫小牧や千歳だけでなく、空港や港から至近にあり首都圏からもアクセスが良いことを利用して、ゴルフ場、馬、牧歌的風景、スキー場、SLなど安平町の魅力を体験し知ってもらいながら、最終的には子育て世代の移住を促す。

◇地域と連携した学社融合ふるさと教育をPRしていくことで、より多くの子育て世代へ安平町に興味を持たせる。



**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆安平町の交通は、空港・港・IC・札幌圏に近いなど四拍子揃っており、他の自治体には負けない強みである。
- ◆スキー・ゴルフ・馬やSLの終焉の地であることは魅力的な資源である。これらが好きな人には、安平町に足を運んでもらい、さらには学社融合事業など地域と連携した生活環境という魅力により住んでもらうということを考えた。



### ③経済産業WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

農業（景観）



交通の利便性



小田舎（暮らし）  
選択肢が多い

◇農業の稼ぐ力を活かして、  
都会から人を呼び人の賑わいを創出する。

学校給食、農直、加工品開発

↳ 食育、ふるさと教育、健康



それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる

- ◆安平町の基幹産業である農業を活かし、都会から田舎へ移住定住するという「田園回帰」の場として魅力発信していくことが可能である。
- ◆農産物を活かした学校給食や農産物直売所など、農業に関連した活躍の場の創出などにより、子どもから高齢者まで様々なかたちで農業とのかかわりを持つことができるのではないか。



#### ④健康福祉WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

##### 交通の便

空港、JR  
高速道路、フェリー



自然豊かで農・畜・林  
など素材が良い



##### 福祉施設

スポーツ施設の充実

野球・サッカー・水泳・ゴルフ  
スケート・アイスホッケー  
スキー・ゲートボール



◇子どもが豊かな自然の中で、安全でおいしい食べ物を食べながら成長し、本格スポーツ施設を活用することで健康な体を手にすることができるまち。

◇生産する大人に関しては農業・畜産・林業の素材の良さを活かし、  
就農の場所としてアピールが可能。

◇独立意欲のある人に関しては、流通の良さや集客面において優位である。

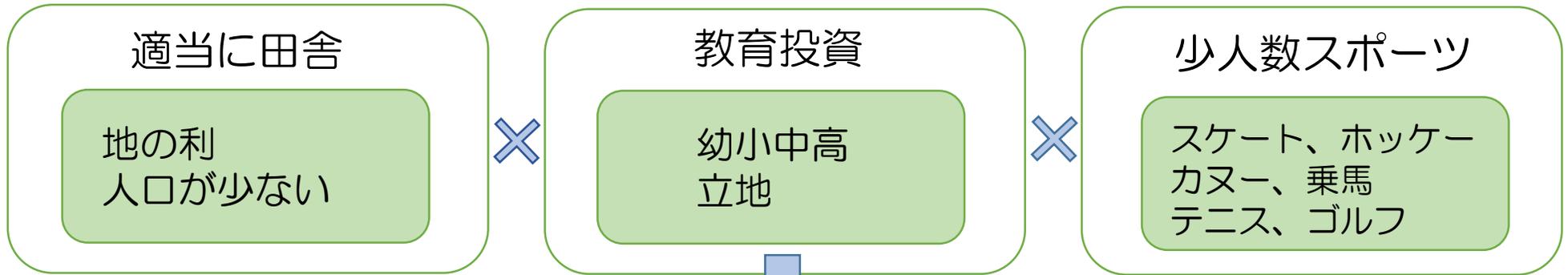


**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆交通の便が良く、30分圏内に多くの交通機関があるまちは少ない。
- ◆福祉施設・スポーツ施設に関しても、数多くあり充実している。
- ◆自然豊かで産業が充実している。  
⇒これらは、子ども・高齢者の体力づくり健康づくりに寄与するとともに、  
生産年齢世代における産業・商業の拠点となり得る場所である。



⑤子育て・教育WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」



◇現在8,300人  
毎年100人増  
出産とあわせ10世帯転入してくれれば・・・の設定



それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる

- ◆適当に田舎であることは、逆に強みとして捉えている。  
それは、安平町に住む人の人情など人のあたたかさである。  
⇒都市部に近い田舎である点に着目し、中古住宅・空き家の活用も検討できる。  
⇒昼夜間人口比率の高さから、企業を巻き込んだ大運動会などにより安平町をPRし  
働きに来ている人に対して人情から知ってもらうことも大切である。
- ◆教育・スポーツについても、実績が伴えば、町外へのアピールにつながる。



## ⑥行政運営WG 子ども・若者・生産年齢世代の取り込みに活用できる「安平町独自の強み」

都会に近くて  
交通アクセスが良く  
自然豊か



子育て分野を含めた  
福祉が充実している



新しい農業基盤への  
取り組みが可能



◇日頃都会で忙しく働きつつも、家族との生活は自然豊かな中で過ごせる。都会で働くための交通アクセスが充実。

◇子育てをしたり、老後を過ごすための福祉が充実し、安心して生活できる。

◇住んでいく中で、安平町の農業（6次産業）に自由に参入でき、他の産業にも波及していける。



**それにより、「子ども・若者・生産年齢世代が賑わうまち」となり  
「社会貢献する元気な高齢者と一緒に暮らす楽しいまち」へとつながる**

- ◆安平町から町外に通勤するための交通アクセスや子育て・教育・福祉環境が揃っている。
- ◆生活するうえでのサポート面（保健師やコミュニティスクールなどの活動）は充実している。
- ◆起業を考えている方のサポート面においても充実しており、6次産業化や新規創業の可能性のあるまちである。



# 会議等結果報告書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                 会議             </div> ・打合せ・協議	文書番号	1467																						
		決裁期日	平成28年8月1日																						
名称	第2次総合計画策定に向けた町民まちづくり会議（平成28年度第3回）																								
日時	平成28年7月26日（火）18：30～20：30																								
場所	追分公民館 2階 中ホール																								
出席者	安平町（企画財政課）木林課長、岡補佐、木村主幹、笹山 会議メンバー 別紙参照																								
会議概要	<p>1 開会及び前回の振り返り（進行：岡補佐）</p> <p>◇第3回目開催に当たり、前回出された将来像の方向性について確認を行う。将来像の方向性を読み上げた後、以下の2点について各ワーキンググループ内で確認を行う。（当日配布資料6ページ）</p> <p>①この方向性で良いか →「チームあびら」「夢に向かってはばたく子ども・若者をみんなで応援」</p> <p>②何か足りない視点や注意すべき視点はないか</p> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; margin-top: 5px;">①、②に対する各WGの意見</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="background-color: #eee;">住民生活WG</td> </tr> <tr> <td>* 子育て世代に焦点を当てた方向性について特に異論はない。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #eee;">インフラWG</td> </tr> <tr> <td>* 方向性については問題ない</td> </tr> <tr> <td>* 下から2行目「町民と行政が一つに～」言葉の締めまでのつながりがわかりにくい。</td> </tr> <tr> <td>* 高齢者のあり方についての記載をしてほしい （子どもと高齢者のふれあいに関する言葉（話し）など）</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #eee;">経済産業WG</td> </tr> <tr> <td>* 方向性については問題ない</td> </tr> <tr> <td>* この方向性を補完するための施策が必要</td> </tr> <tr> <td>* 「子ども・若者世代」という言葉の定義を明確にした方が良い</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #eee;">健康福祉WG</td> </tr> <tr> <td>* 方向性については問題ない</td> </tr> <tr> <td>* 「高齢者」も含めた文言にした方が良い</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #eee;">子育て教育WG</td> </tr> <tr> <td>* 方向性については問題ない</td> </tr> <tr> <td>* 10年間の目標を設定するにあたって、教育だけでよいのか。</td> </tr> <tr> <td>* 数値目標を立てることも必要（若者世代の町外流出を防ぐなど）</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #eee;">行政運営WG</td> </tr> <tr> <td>* 方向性については問題ない</td> </tr> <tr> <td>* 「子育て・教育」は他市町村でも取組まれる分野であり、差別化が課題であると感じる</td> </tr> <tr> <td>* また、住民へのPRや情報発信が不足している分野でもある</td> </tr> <tr> <td>* ストーリー性や具体性を示すこと重要である。</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">⇒目指すべき方向性（将来像）については、全会一致</p>			住民生活WG	* 子育て世代に焦点を当てた方向性について特に異論はない。	インフラWG	* 方向性については問題ない	* 下から2行目「町民と行政が一つに～」言葉の締めまでのつながりがわかりにくい。	* 高齢者のあり方についての記載をしてほしい （子どもと高齢者のふれあいに関する言葉（話し）など）	経済産業WG	* 方向性については問題ない	* この方向性を補完するための施策が必要	* 「子ども・若者世代」という言葉の定義を明確にした方が良い	健康福祉WG	* 方向性については問題ない	* 「高齢者」も含めた文言にした方が良い	子育て教育WG	* 方向性については問題ない	* 10年間の目標を設定するにあたって、教育だけでよいのか。	* 数値目標を立てることも必要（若者世代の町外流出を防ぐなど）	行政運営WG	* 方向性については問題ない	* 「子育て・教育」は他市町村でも取組まれる分野であり、差別化が課題であると感じる	* また、住民へのPRや情報発信が不足している分野でもある	* ストーリー性や具体性を示すこと重要である。
住民生活WG																									
* 子育て世代に焦点を当てた方向性について特に異論はない。																									
インフラWG																									
* 方向性については問題ない																									
* 下から2行目「町民と行政が一つに～」言葉の締めまでのつながりがわかりにくい。																									
* 高齢者のあり方についての記載をしてほしい （子どもと高齢者のふれあいに関する言葉（話し）など）																									
経済産業WG																									
* 方向性については問題ない																									
* この方向性を補完するための施策が必要																									
* 「子ども・若者世代」という言葉の定義を明確にした方が良い																									
健康福祉WG																									
* 方向性については問題ない																									
* 「高齢者」も含めた文言にした方が良い																									
子育て教育WG																									
* 方向性については問題ない																									
* 10年間の目標を設定するにあたって、教育だけでよいのか。																									
* 数値目標を立てることも必要（若者世代の町外流出を防ぐなど）																									
行政運営WG																									
* 方向性については問題ない																									
* 「子育て・教育」は他市町村でも取組まれる分野であり、差別化が課題であると感じる																									
* また、住民へのPRや情報発信が不足している分野でもある																									
* ストーリー性や具体性を示すこと重要である。																									

## 2 ワークショップの手法について（岡補佐）

- ◇1で確認したとおり「将来像の方向性」が決まり、続いて将来像を実現するための戦略検討を行う。
- ◇戦略検討にあたっては、「SWOT分析」を用い、安平町の**強み**、**弱み**、安平町を取り巻く環境である**機会**、**脅威**を掛け合わせるにより**成長・改善・回避・改革戦略**を検討いただく。  
(SWOT分析の詳細については、別紙当日配布資料のとおり)

## 3 ワークショップ及び発表

- ◇ワーキンググループ毎に分野別の戦略を検討していただく。企画Gにて事前に強み・弱み・機会・脅威を設定し、それに対する戦略を検討してもらう形式とした。
- ◇本日のワークショップにおいて4戦略すべて出す必要はなく、次回も継続して検討いただくこととする。
- ◇検討いただいたワークショップ結果については、別紙まとめのとおり。

## 4 閉会（岡補佐）

- ◇次回も引続きSWOT分析を用いた戦略検討を行っていただく。
- ◇次回会議は、8月30日（火）18：30に開催される旨説明し終了。

終了 20：30

**強み** 地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施

**弱み** 空き家の増加

## 機会

ライフスタイルの多様化

### 成長 戦略

#### ◆町内会・自治会のリニューアル

- ・自治会組織の再編などではなく、ボランティアや活動に対する意識改革
- ・町内会・自治会の見守り隊の強化
- ・ボランティアの仕組みづくり  
⇒ポイント制の導入  
(景品や表彰などと交換)

#### ◆自分の健康は自分で！

- ・誰でもできるスポーツの開発などにより、スポーツを日常化させ健康増進に寄与
- ・医療費にかかるお金の縮小

ライフスタイルの多様化

### 改善 戦略

人口に対し生活インフラが整っており、のんびり豊かに生活できる

地域公共交通（特にバス・JR）に対する住民の満足度の低さ

## 脅威

全国的な少子高齢化の進行

### 回避 戦略

人口減少社会の到来

### 改革 戦略

#### ◆JRの利用 ～まずは行政職員から～

- ・通勤通学で利用しているのは、学生だけ
- ・町職員が通勤で利用し、現状を確認することも重要である。
- ・時間帯の増に投資をしていくなど

## 強み

災害が少なく気象条件にも恵まれた環境

## 弱み

インターネット環境・WIFI環境が遅れている

## 機会

情報通信技術の活用  
のひろがり

### 成長戦略

#### ◆住みやすいまちを前面に出した移住政策

- ・新規住宅地の開発や既存住宅地、中古住宅のPR
- ・定住してもらうために  
水害・土砂崩れ・停電が少ない条件をPRする

安全・安心に対する意識の高まり

### 改善戦略

#### ◆LTE回線の強化（ソフトバンクなど）

- ・企業とのコラボで光ファイバー網整備の実施
- ・光ファイバー網整備には莫大な資金を要するため  
LTE回線の強化を行う

札幌・千歳・苫小牧など都市に至近でありつつ豊かな自然のある「ほど良い田舎まち」

道路の草刈が行き届いていない

## 脅威

人口減少社会の到来

### 回避戦略

#### ◆安平町への通勤者の定住

- ・都市に通勤・買い物も出来る良いまちとしてPRし定住対策を講じる
- ・町民として・・・  
職場にいる通勤者へ安平町をPRする

公共事業の削減傾向

### 改革戦略

#### ◆地域住民による草刈り作業の実施 （自治会への依頼、ボランティアの募集、町内企業との連携）

- ・草刈ボランティアの後に、連携企業からの特典を得られるしくみ。  
鶴の湯入浴、牧場見学など
- ・フェイスブックなどで情報発信をし、町外からの参加者を募る
- ・地域住民による草刈作業の実施  
子どもから高齢者が集まり作業することで交流が生まれる
- ・町と町民の協働による草刈り

## 強み

多種多様な農業（地産地消が可能でPRになる）

## 弱み

観光資源の認知度が低い

## 機会

6次産業化・農商工連携への関心の高まり

### 成長戦略

◆移住促進対策  
（農家レストラン、農直、地域おこし協力隊）

◆道の駅への出店を目標とした移住促進対策

出店内容～農産品、加工品、調理品など  
出店方法～地域おこし協力隊の活用

◆あびらチャンネルを活用した町内農産物のPR

町内特産品の良さをまず町民に知ってもらいつつ、購買意欲を喚起する

◆個人事業者が立ち並ぶ市場  
屋台村のような小さな  
ショッピングモールの設置

◆カット野菜やミックス野菜を得意とする企業誘致対策

町内特産品の良さをまず町民に知ってもらいつつ、購買意欲を喚起する

北海道新幹線の開業

### 改善戦略

◆PR向上対策（機関紙等による広告）

◆SLのコラボ（新旧のコラボ）

・JR座席においてある機内誌への広告

・道の駅に置かれるSLと新幹線（新・旧の演出）

◆胆振広域や周辺市町村の連携による観光ツアーの開発

安平町だけでは魅力に欠ける

全国屈指のメガソーラー発電と世界最大規模の蓄電施設が町内に存在

恒常的に自己水源が乏しく使用料も高い

## 脅威

世界規模のエネルギー危機の懸念

### 回避戦略

◆自然エネルギーの活用  
（水素ステーションの建設）

・電気自動車の普及促進  
⇒公用車への導入、購入助成  
ステーションの設置

・太陽光から水素エネルギーをつくる  
⇒水素エネルギー先進地を目指す  
国の補助金を活用し、全国自治体の  
モデルとなるマチを目指す

◆自然エネルギーの地産地消  
（町民ファンドによる取り組み）

太陽光以外の水力・風力などの自然  
エネルギーの供給施設の設置。  
その財源の町民ファンドの活用

経済低成長化、所得・雇用不安定化

### 改革戦略

◆多くの水を使用しない企業誘致

IT企業、倉庫、サテライト施設  
コールセンターなど

◆水質改善施設の設置

・企業誘致等の場面では、業種によって鉄分を多く含む水質を嫌がるケースもあり課題である。

・昔、早来に酒造があった

瑞穂ダム水源の有効活用

**強み** 地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施

**弱み** 地域公共交通（特にバス・JR）に対する住民満足度の低さ

## 機会

地域課題を解決するビジネスへの期待

### 成長戦略

◆タクシー助成券による利用者拡大（複数による利用）

一台を複数で利用 → 運賃負担軽減  
↓  
その調整・采配を地域コミュニティで  
(有償：一件あたり単価払いなど)

地域課題を解決するビジネスへの期待

### 改善戦略

◆タクシー助成券による利用者拡大（デマンドバスを見直し）

・タクシー利用による利便性の拡充  
↓  
利用者増加  
↓  
タクシーの増加  
↓  
雇用の増加

・期間限定（夏季休業など）  
・循環バス（子どもが乗れる）  
→子どもだけで各種催し物に参加するため  
※日常的に子どもがタクシーを使う → 一般的常識から遊離

・タクシー会社を支え、利用者の利便性向上

コミュニティ活動が未だに機能しており、地域見守り活動など行政の手が行き届かないサービスを町民が支えている

医療機関（総合病院）の整備が望まれている

## 脅威

買い物難民の増加

### 回避戦略

◆タクシー助成券による利用者拡大（買い物難民）

町内商店で品物を見比べて自分で選ぶ  
↓  
タクシーを利用して、玄関先から店先までを実現

全国的な少子高齢化の進行

### 改革戦略

◆健康寿命延伸事業

病院にかからない元気な町民を育てる

## 強み

子どもの数が少ないながら、文化・スポーツ活動で全国大会・全道大会に出場している現状

## 弱み

子どもを対象とした全天候型施設がない

## 機会

健康やスポーツに対する関心の高まり

### 成長戦略

#### ◆スポーツに特化した施策

##### 【指導面、交通面によるサポート】

・施設、指導者、交通利便性、少人数による試合数の多さ

・デマンドバス、スポーツ少年団の交流を行っていく

##### 【人材誘致】

・安平町出身かつオリンピック会長である橋本聖子さんや清水宏保さん（スピードスケート）を活用した指導体制

##### 【ふるさと納税への期待】

・町外へ流出した若者に対しては、ふるさと教育により芽生えた郷土愛からふるさと納税へとつながる

##### 【推奨スポーツの選定】

・町で推奨スポーツを選定し、指導者・選手に手厚い支援体制

・推奨した種目に特化した施設改修

安全・安心に対する意識の高まり

### 改善戦略

#### ◆全天候型施設の整備

・大きなドーム型施設ではなく、既存の施設や園庭に屋根を取り付けて利用するなど子ども達の遊び場創出

地域に2つの公私連携型幼保連携型認定子ども園がある（できる）

学校施設の老朽化

## 脅威

子育てに対する不安感や負担感の増大

### 回避戦略

#### ◆子育てに対する不安感 負担感の縮小傾向

・スマホ（LINE）などで情報共有・連携が図られ、そこまで不安や負担を感じなくなりつつある。

・子ども園に預けているという外注や他人任せの親の意識の方が問題

#### ◆子ども園の一元化した運営

・子ども園、児童館、子育て支援センターを一括して民営化することで、円滑な運営を可能とする。

#### ◆父親の育児参加推進

・地域支援本部の設置

・地域おこし協力隊がコーディネーター

#### ◆いなか食堂

・地域のおじいちゃんが子ども園に赴き、子ども達と一緒に食事を取るなど交流を図るもの  
※地域へ開放

#### ◆町外から子どもを呼び込む

全国的な少子高齢化の進行

### 改革戦略

#### ◆学校統廃合（老朽化）

・学校の選択制導入（子どもや保護者による）

・早来地区（安平・遠浅小学校統合）

・追分地区（小中学校の連携）

##### 【新校舎】

レトロかつ文化的なデザインや手づくり要素を加える。

## 強み

まちづくり基本条例・町民参画推進条例の制定により協働のまちづくりに向けた施策が展開されている

## 弱み

自治会・町内会役員の担い手不足

## 機会

地域課題を解決するビジネスへの期待

### 成長戦略

#### ◆総合商店的な施設

- ・町内の空き店舗や現状存在している施設を有効活用した総合商店的な施設を整備し、お年寄りなどの買い物弱者向けに、既存ハイヤー会社の協力を得ながらデマンドバスを利用する。施設は行政が整備し、運営は町民
- ・その施設には保健師が常駐し、高齢者のコミュニティの場や子どもと高齢者の交流の場など、いろいろな機能を持たせる。  
(病院を取り込んだサービスも重要)
- ・さらに、分散している人を動かす手段として、地区ごとに複数設置してはどうか

#### ◆有償ボランティア

老人福祉事業者が不足する中、NPO法人や有償ボランティアなどによる福祉企業の誘致により、都会の退職者（富裕層）をターゲットにして定住につなげていく

#### ◆組織づくり

- ・買い物のお手伝いなど高齢者を手助けできる有償ボランティア組織づくりと、高齢者から子育て世代へのアドバイスなど、お互いに協働する仕組づくり
- ・小さなことやいろいろな課題を総合的に対応していく組織（地域課題をまとめて対応する総合商社的な組織）  
があってもよいのでは
- ・役場にもそのような部署があっても良い。  
(行政と町民の役割分担によるコスト削減)

### 改善戦略

「協働・参画型」のまちづくりへ

既存の工業団地に多くの企業が事業展開地域内に雇用があり、昼夜間人口比率(106.7%)が全国174位

道路・橋梁の老朽化 学校施設の老朽化  
公共施設の老朽化・更新が必要

## 脅威

経済の低成長化、所得・雇用の不安定化

### 回避戦略

#### ◆企業が建設する社宅への助成事業

- ・社宅への助成により町外在住の従業員に住んでもらう（通勤者を定住につなげる）
- ・通勤・通学している町外者1,800人が町内に住まないのは住宅事情（家賃、物件数等）にあるが、ニーズ調査や企業への需要調査などを行う必要がある。
- ・町内に空き家も目立ち始めているので、それらの再利用やリフォーム助成などの検討も必要
- ・このような制度があるという情報発信も重要

#### ◆電気料金の値下げによるPR

- ・町内には多くのソーラーパネルが設置されており、これらを利用し、電気料金の値下げによる「電気の安いまち」でPRできないか。（生活に直結するような材料があればPRにつながる）
- ・反面、ソーラーパネルが増えて、安平町の景観が変化していくことに不安を感じる  
(丘陵地帯の喪失)

### 改革戦略

公共事業の削減傾向  
インフラの維持費・更新費の増大

## あらゆる世代が望む、全町民が望む究極の目標

夢と希望を持った子どもたちの笑顔があふれ  
元気な高齢者が社会に貢献しながら生きがいを持って生き生きと生活し  
町内外の人々の交流によって活気をつくり  
暮らす人々が役割を分担しながら、発展していくことによって  
生きることを楽しめるまち ここに住んでよかったと思えるまち

第1回町民まちづくり会議による将来像イメージ



**10年後も子ども・若者・生産年齢世代がこの町に住んでいることが前提**



これを実現するため、職員にも町民にも分かりやすい、具体的な将来像を設定し「チームあびら」の精神でチャレンジする。



「実現する可能性」は「まちの強み」にかかっている  
どのスイッチを最初に押せば、起爆して他の分野に波及するのか  
そのスイッチを探し 明確な目標を定める → 将来像

## ■町民まちづくり会議で40もの「安平町の強み(優れていること)」が出されました。

### 町民まちづくり会議で出された「まちの強み」(主なもの)

- [立地条件] ◇大都市に近くて「ほど良い田舎」 ◇鉄道・高速道路・国道など交通インフラがあり、空港・港に近い
- [生活環境] ◇牧歌的な風景と丘陵に広がる牧歌的な風景 ◇地域内に希少生物が多く存在  
◇災害が少なく気象条件も良い ◇ある程度生活インフラが整備され、宅地の地価も安い
- [産業経済] ◇世界に誇るG1名馬(種牡馬)が集まる希少な地域 ◇北海道有数の作付面積を誇る菜の花  
◇地域内に雇用があり、昼夜間人口比率(106.7%)が全国174位  
◇メロン、和牛など、ブランド特産品が存在 ◇有機農業を含む新規就農が継続
- [健康福祉] ◇地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施  
◇入院可能な民間病院がある
- [子育て教育] ◇地域に2つの公私連携型幼保連携型認定子ども園  
◇コムスク・学社融合体制による幼小中高の連携が確立  
◇文化・スポーツ活動で全国大会・全道大会への出場が顕著
- [コミュニティ] ◇都会にはない人情味の厚さ ◇意外にまとまりやすい町民気質  
◇コミュニティ活動が未だに機能
- [行政運営] ◇行政が身近で住民意見の政策反映が早い  
◇行政・地域住民が、意欲ある住民を応援する体制にある

「安平町ならではの強み」と言えるものを活かしてキラリと光るまちを目指す

**■「安平町独自の強み」を活かした子ども・若者・生産年齢世代を取り込む具体策をまとめて終了しました。**

①住民生活WG	町外からの通勤者に対するPRによって子育て世代を取り込むべき。
②インフラWG	まちの魅力を知ってもらい、学社融合事業など地域と連携した生活環境という魅力により住んでもらう。
③経済産業WG	基幹産業である農業を活かした「田園回帰」の場として移住につなげる。
④健康福祉WG	空港・港などに近く産業・商業の拠点となり得る場所。スポーツ施設を通じて子ども・高齢者の体力づくり健康づくりを図り住み続けられるまちへ。
⑤子育て・教育WG	人情が厚い適当な田舎が逆に強み。通勤者に安平町の人情を知ってもらい教育・スポーツの実績を町外へのアピール。空き家・中古住宅への住み替えを促進する。
⑥行政運営WG	子育て・教育・福祉環境（保健師）が整ってることから、平日都会で働く方が住む場所として最適。農業（6次産業）へのサポートも充実している。

前回までの町民まちづくり会議では各グループでこんな意見も出ていました

**他の自治体より優れた強みなんてあまりない。逆に弱みを克服することから始めるべきでは？**

「魅力あるまち」実現に向け、あらゆる分野で住民満足度を向上させたい。  
—これは町民も行政も共通の願い—

当然「弱みの克服」も必要

しかし簡単に実現できないものも存在



「具体的な目標」は、まちの強みがある実現可能な分野に絞るべき



**ピーター・F・ドラッカー（経営学の父）**

集中せよ 成長戦略は集中を要求する

成長戦略の最大の間違い、しかも最も一般的な間違いはあまりに多くの分野で成長しようとすることである

成長戦略は、機会のあるところに的を絞らなければならない。

自らの強みが異常なほどに大きな成果を生む分野に集中しなければならない。

行政は企業経営とは異なる。実現が難しい分野をあきらめるわけでも、切り捨てるわけでもない。当然「弱み」を克服するための戦略も考えていく。（病院・交通機関が不便 ⇒ 知恵勝負）

10年後も子ども・若者・生産年齢世代がこの町に住んでいるための重点分野とは？

分野	着眼点
①雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状はどうか</li> <li>・強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</li> <li>・弱み（ハードル）を克服できるか</li> <li>・将来推測（可能性）</li> </ul>
②移住・定住	
③子育て・教育	
④住民生活（生活環境・行政サービス）	
⑤福祉・医療	
⑥商業振興	
⑦農業施策	
⑧交流人口拡大（観光）	

出された「まちの強み」を町職員で分析し、結論付けた将来像の方向性

最重点政策ポイント

子育て・教育分野

「子育て・教育」で他の自治体に負けない強みがあると分析

最重点政策ポイントと連動すべき政策

住宅政策（移住・定住）分野

「土地が安い」「都会に近い」「快適自然環境」にプラスして「子育てしやすい」が強みを増強

弱みを克服しながら強みを最大化する政策

福祉・医療分野

住民生活分野

農業振興分野

商業振興分野

雇用・企業誘致分野

弱みは知恵で克服

交流人口・観光分野

安平町の知名度向上は、全ての政策を成功させる上で必要となる政策

『子ども達の元気な声が地域に響くと高齢者も元気になる』『若い人がいなきゃこの町に未来はない』  
町民まちづくりアンケート、団体ヒアリング、町民まちづくり会議で多く聴かれた声です。

逆に子育て世代からは『子育てを応援してくれるおじいちゃんやおばあちゃんには、いつまでも元気に活躍してもらいたい』という声が聴かれました。

地域の宝である未来を担う子どもの夢をみんなで応援しようという想いは、昔から安平町には存在し、体験学習では地域の方々が先生となるなど、地域によって子育てや教育が長年支えられています。

人づくりはまちづくり。これからも町民一丸となり子ども達に安平町の良さを伝え、明日のまちづくりを担う人材を育てていく責務が大人にはあります。

子ども達は、いずれ立派な若者に成長し、その一部は自分の可能性を信じ外の世界へと羽ばたいていくかもしれません。でも、暖かい人情により地域で教えられたことは、ふるさと愛としていつまでも心に残り、学んだことを大切にしてくれて、いつかは再び安平町に戻ってこようという気持ちにつながります。

そのために、私たちも未来に向けて準備が必要です。

まずは今いる私たちが、安心して生涯住み続けられるまちになること。

若者がこのまちではばたくことができる舞台を用意してあげること。

そして将来、立派に成長した若者と一緒に元気に活躍しているおじいちゃんおばあちゃんになれるよう自分の得意分野を磨いておくこと。

これが安平町を次の世代へ引き継ぐための準備となります。

町民と行政が一つにまとまり、この将来像に向かってまちづくりができれば、きっと多くの生産年齢世代の共感を生み、子育てしやすいまち、住み続けたいまちとして「選ばれるまち」につながるはずです。



**「チームあびら」 「夢に向かってはばたく子ども・若者をみんなで応援」**

**これを安平町の10年後の将来像の方向性（イメージ）とします**

## 行政側での分析結果

■現状はどうか	○過去10年で既存企業の増設、旧公共施設を活用した創業で動きはあるが北町工業団地、追分工業適地への企業誘致は厳しい状況。
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	○空港・港湾が近く輸送コストが安価。消費地も至近 ○工業団地は周辺に比べて分譲価格は安価 ○町内の雇用者は決して少なくない（H22国調⇒1,863人が通勤通学）
■弱み（ハードル）を克服できるか	○都市計画法の存在により、広大な敷地を確保できない。 ○工業用水が確保できない。 ○周辺大都市に大規模な工業団地が存在
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○震災以降、本州企業のリスク分散に可能性はあるが、苫東ほか周辺都市の工業団地に対抗できるかがポイント

## 〔専門部会意見〕

- ・大きな雇用を生む産業は工業用水が必要だが、安平町は水源に乏しい
- ・震災後の企業のリスク分散の動きは鈍い
- ・まずは、町内立地企業をしっかり守り、町外通勤者1,800人を転入させる施策展開が重要
- ・なぜ通勤を選択するのか、安平町に住まない理由をしっかりと調査するべきである。
- ・重点政策の最初とはならないが、雇用確保は重要であり常に受け皿を設けておく必要がある。

雇用（企業誘致）⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）

ただし、受け皿対策はしっかり行う（立地企業に対する調査）

<p>■現状はどうか</p>	<p>○定住促進条例に基づく助成対象者の数は過去10年で若草団地2軒、ララタウン5軒、アイリス28軒、分譲地以外10軒</p> <p>○アパート建設助成により建設された民間賃貸住宅入居者は約6割が町外からの転入</p>
<p>■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</p>	<p>○大都市が通勤圏内である。</p> <p>○アパート建設助成の過去例から、住宅確保で一定の転入は望める。</p>
<p>■弱み（ハードル）を克服できるか</p>	<p>○都会から通勤できるという逆の弱み（H22国調⇒1,863人が通勤通学）</p> <p>○千歳・苫小牧ともに土地区画整理事業による大規模な宅地開発を実施（ニーズに合わせて小さな区画で販売しており、坪単価が安い当町に有利性がない）</p>
<p>■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか</p>	<p>○都会の利便性を捨て当町を選択させるには、安価な土地・豊かな自然環境にプラスした魅力が必要であり、これにより移住定住を見込める。</p> <p>○経済状況等の現状を踏まえ、若い子育て世代は、必ずしも新築住宅の建設を希望していない可能性がある。</p>

## 〔専門部会意見〕

- ・今あるコミュニティ活動をいかに維持していくかが課題。その意味で移住対策は極めて重要。
- ・地区別の対応が必要。（追分地区は中古住宅の住替えを重視。早来地区は空き地の販売）
- ・大規模な宅地分譲は中期的にニーズが薄い。
- ・町外から町内企業に通勤する方がどうすれば転入するかをしっかりと調査するべき。
- ・民間賃貸アパートの家賃が高く同じ家賃なら都会から通勤を選ぶ声が多い。
- ・一軒家の借家を希望する子育て世代が非常に多い。
- ・子どもの保育・教育の状況を選ぶポイントとしている方が多い。（連動）

移住・定住 ⇒ 最初のポイント政策に該当

\* 1,800人の通勤者をいかに安平町に居住させるかを検討

■ 現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はやきた子ども園を今年度民営化（評価はどうか）</li> <li>○追分地区児童福祉複合施設整備（確実なサービス向上が見込める）</li> <li>○子育て支援は国としても重点課題であり、支援策が今後も要求される。</li> </ul>
■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内全域を対象とした2箇所の公私連携認定こども園が所在</li> <li>○地域住民と学校の距離が近く、加えて社会教育が連動性を持っており地域全体で子どもを育成する土壌がある。</li> <li>○コミスクの全校設置</li> <li>○スポーツ施設が充実（アイスアリーナ・スキー場など近隣には無い希少施設）</li> </ul>
■ 弱み（ハードル）を克服できるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設の老朽化</li> <li>○児童生徒数の減少による教育効果の減退（学習面・部活動など）</li> <li>○全国自治体が「子育て支援」を重点政策に掲げている。（競争に勝てるか）</li> <li>○雨天の日に遊べるところが少ない</li> </ul>
■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て・子どもへの教育への関心は今後更に高まることが予想される。</li> <li>○子どもという共通項を通じた政策展開は全世代の納得性が高い。</li> </ul>

## 〔専門部会意見〕

- ・周辺に勝るまちの強みは「教育」と「住環境」の2本以外に考えられない。
- ・こども園整備など、これまでの事業実績があり子育て・教育の分野は外せないが、ニーズは多様であり、弱みを克服できるかの覚悟が必要。
- ・ふるさと納税の使い道を子育て支援に明確化している上土幌町はわかりやすい。やるなら早い方が良い。
- ・今までと同じでは今までと変わらない。
- ・当町は、子育て支援やコミスクなど良い取り組みをしているが、それが町民に知られていない。PR手法を再考。
- ・教育は住民から見れば「どこにでもある。充実していて当たり前」の感覚がある。
- ・子育て支援と教育は、ターゲットは女性。移住・定住も決断者は女性。女性の視点が重要。

子育て・教育 ⇒ 最初のポイント政策となる。

\* 1,800人の通勤者をいかに安平町に居住させるかを検討

■現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道路・上下水道などインフラ整備が講じられている。</li> <li>○環境整備面（道路の雑草など）で不満の声は多い。</li> </ul>
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都会に近いながら、地域内に希少生物が多く存在する自然環境</li> <li>○大きな災害が無い。</li> <li>○鉄道、高速道路、空港、重要港湾に至近な「コンパクトな田舎まち」</li> <li>○降雪の少なさ、日照時間の長さという自然からの恩恵がもたらした全国屈指のメガソーラー発電所と世界最大規模の蓄電施設が町内にある。</li> </ul>
■弱み（ハードル）を克服できるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共料金の高さ（上下水道料金）</li> <li>○公共交通の利便性の低さ。</li> <li>○周辺環境（雑草など）に対する改善要望は多い。</li> <li>○インターネット環境が悪い（安平・遠浅・農村地区）</li> </ul>
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフラ整備や公共交通網の改善、住民サービス料金の低減化など弱みを一気に克服するための投資は、財源的な問題もあり、克服できない部分もある。</li> </ul>

## 〔専門部会意見〕

- ・ハード事業を劇的に変化させることは困難。10年間で弱みを克服することはできない。
- ・計画的に粛々とハード事業を実施するほかない。

住民生活（生活環境・行政サービス） ⇒最初のポイントにはならない（従たる政策）  
\* 財政を勘案し、計画的な対応が求められる。

<p>■ 現状はどうか</p>	<p>○子育て支援対策の拡充とともに、高齢者に対する健康寿命延伸事業にも力を入れている。</p>
<p>■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか</p>	<p>○自治会・町内会活動により、見守り活動など住民協働による福祉活動が盛んである。 ○民設民営の医療機関により第1次圏医療が確保されている。 ○乳児から就学前健診まで手厚く、子どもの医療助成無料化の対象も高校生まで拡大</p>
<p>■ 弱み（ハードル）を克服できるか</p>	<p>○全世代において「総合病院」の設置を望む声大きい。 ○専門職の人材不足</p>
<p>■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか</p>	<p>○行政としてこの政策分野の領域は、行政の根幹である。（可能性などとは別次元） ○ただし、住民ニーズが高い医療機関の整備という弱み克服は難しい部分がある。</p>
<p>〔専門部会意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉は重要であり、目標とは別次元である。</li> <li>・高齢者が生き生きと生活する社会を目指すことは行政の使命。</li> <li>・ただし、全世代が希望する総合病院の立地は実現可能性が低く、目標として掲げることは難しい。</li> </ul>	
<p>福祉・医療 ⇒ 最初のポイントにはならない。（従たる政策） * 弱み（医療機関）の克服では、広域連携に頼らざるを得ない。</p>	

■ 現状はどうか	○個店数は減少しており、今後10年後の存続が危ぶまれる店も多い。 ○町では今年度、創業支援計画を策定し、商店等継承者の確保対策を強化する予定。
■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	強みとして出されたものはない。 *ただし、町民アンケートでは「満足度が低く」「将来重要度が高い」
■ 弱み（ハードル）を克服できるか	○商店に活気がない。 ○空き店舗を活用したいが、住居と併せた店舗であり活用が困難。
■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○団塊の世代がさらに高齢となる向こう10年において、買い物対策は大きな課題となるものであり、継承者や起業者をいかに獲得していくかが大きな課題であり、可能性の問題ではなく、取り組むべき重点課題である。

## 〔専門部会意見〕

- ・商工会、商業主の足並みが揃わない状況にあり、現段階で「強み」と呼ばれるものは1つも無い。
- ・今の経営者は生活でいっぱい状態で、全体でどのように活性化するかという視点にない。
- ・商店主は65歳になっても年金が無く商売を続けていかざるを得ないが、65歳を超えると銀行融資が得られない矛盾がある。この点をどのように支援するべきか。

商業振興 ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）

■現状はどうか	○農家戸数は、年々減少しているが、当町は新規就農者が継続的に獲得できている。
■強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	○少量ではあるが多品目の農産物 ○菜の花（菜種）など6次産業化の芽がある。 ○有機農業の新規就農にも寛容
■弱み（ハードル）を克服できるか	○農業後継者がなく離農を余儀なくされる農家が多い。 ○少量ゆえに、大規模農家と比較して生産性が低い。
■社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	○少子高齢化により経済の縮小は避けられず、その意味で農業は今後国内で大きく注目される産業となりえる。

## 〔専門部会意見〕

- ・農業は当町では基幹産業であり、食育・グリーンツーリズムなどは大きな可能性がある。（長沼町はグリーンツーリズムの受け入れが間に合わない状況）
- ・農業も商業も住民が自ら生業として実施しており、町政よりも国政や経済に左右される。農業については町の政策をサポートする位置付けが良い。
- ・軽種馬産業も同様に、行政に頼ることなく、自主的な活動で成果を上げている。他に負けない絶対的強みがあるものの、町として接点がない状況にある。
- ・新規就農の獲得という面だけで主たる政策になるのは難しい（国の政策は大規模化（法人化・集積化））

農業施策 ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）

■ 現状はどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回遊・交流ステーション形成事業を展開</li> <li>○目的型観光から町内回遊へ結びつける手法を検討中</li> </ul>
■ 強み（施策を推進するバックグラウンド）はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道らしい牧歌的な風景</li> <li>○地域内にクラスの異なるゴルフ場が5つ隣接</li> <li>○単純な軽種馬産業という区分ではなく、名馬（種牡馬）が集まる希少な地域</li> <li>○道の駅の建設</li> </ul>
■ 弱み（ハードル）を克服できるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿泊施設がない</li> <li>○長時間滞在を可能とする商業的施設がない</li> <li>○日本有数の軽種馬産地でありながら、まちづくりに活かしていない。</li> <li>○町の情報がわかりづらい。調べなければならない</li> </ul>
■ 社会情勢等に基づく将来可能性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者・生産年齢を取り込む上で、安平町の知名度向上は重要課題であり、「安平町を知り」⇒「一度訪れ」⇒「リピーターを増やし」⇒「一握りでも移住定住」の流れを作ることは必要</li> </ul>

## 〔専門部会意見〕

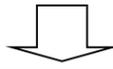
- ・人を引き付ける魅力はあり、道の駅も建設する。とにかく今必要なのは安平町のPRである。
- ・ターゲットを引きつける最初のきっかけとして力を入れる必要がある。

交流人口拡大（観光） ⇒ 最初のポイントにはならない（従たる政策）  
 ＊交流人口により町をPRし、そこから定住人口へつなぐ手段

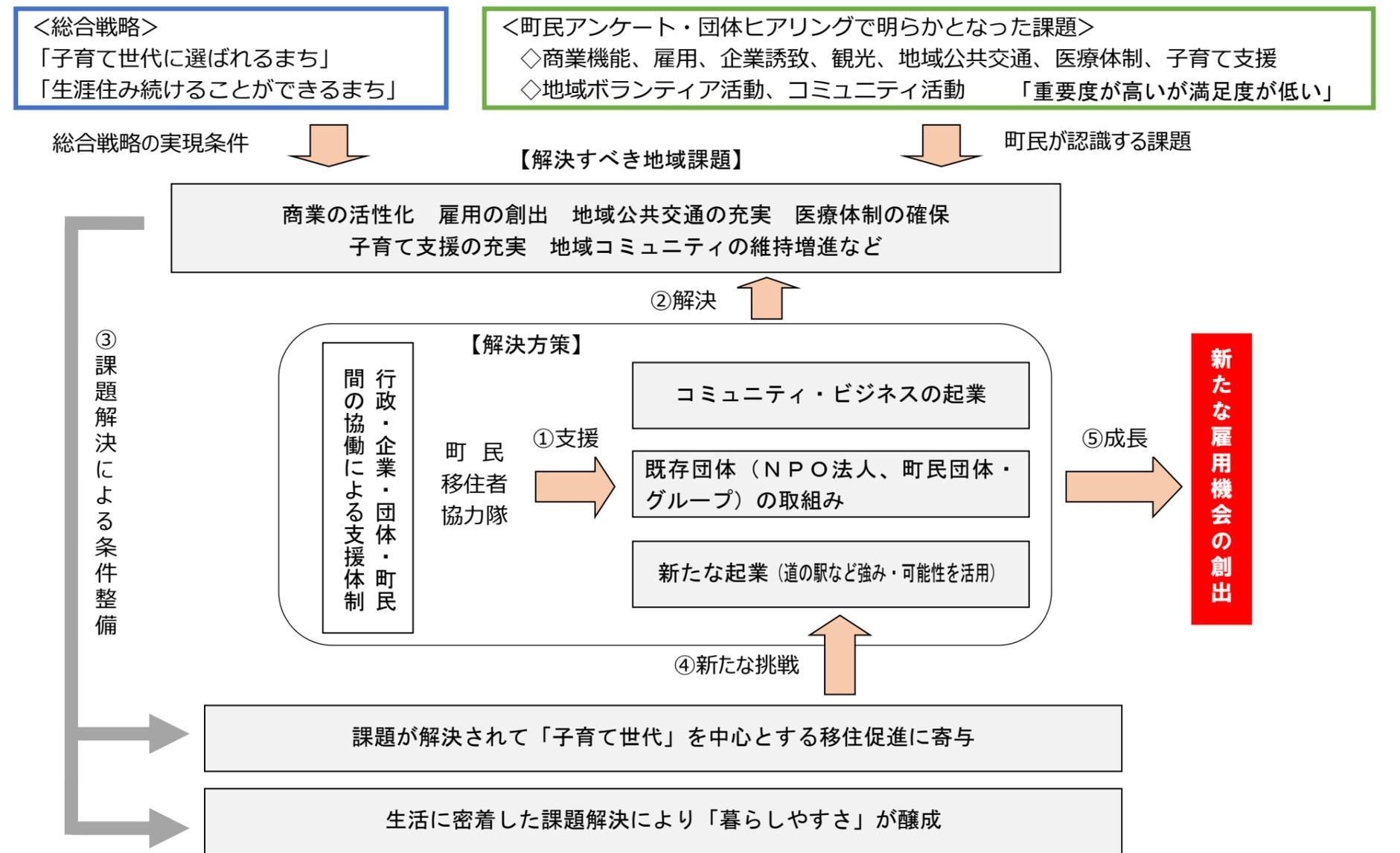
第2次安平町総合計画「重点プロジェクト」の設定に向けた基本的考え方（案）について

重点プロジェクトの設定に向けた基本的考え方（案）

- 策定した「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」）において、当該戦略を総合計画の重点プロジェクトに位置づけることを明記。（総合戦略⇒「子育て世代に選ばれるまち」「生涯住み続けることができるまち」）
- 第2次安平町総合計画の将来像として「子ども達の元気な声が地域に響くと高齢者も元気になる」「若い人がいなければこの町に未来はない」という基本的考え方に基づき、「チームあびら（町民と行政の協働）」による「夢に向かってはばたく子ども・若者をみんなで応援するまち」を方向性として確認。
- 町民アンケート・団体ヒアリングにより今後10年の地域課題が明確化 ⇒ 選ばれる・住み続けられるまちの阻害要因
- 山積する地域課題を解決し、併せて「子育て世代に選ばれるまち」「生涯住み続けることができるまち」を実現するために必要となる戦略を「重点プロジェクト」に設定するとともに、この実現にあたっては安平町まちづくり基本条例の理念に基づき、行政と町民による協働のまちづくりの実現により達成しようとするもの。



チームあびら「安心・平穏生活実現プロジェクト」  
（地域課題を解決するコミュニティ・ビジネスを活用した子育て世代の移住促進）



- ①町民主体の課題方策を実現するための支援体制構築 ⇒ ②課題が解決 ⇒ ③子育て世代に選ばれ・住み続けられるまちへ ⇒  
④新たに移住した子育て世代が起業にチャレンジ ⇒ ⑤事業が成長することで新たな雇用創出へ ⇒ 更なる移住定住者を獲得

重点プロジェクトの設定に係る安平町の背景（主なもの）

<p>【行政の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本条例の制定</li> <li>・H26年度「安平町まちづくりファンド」創設</li> <li>・既存NPO法人による公共施設管理を実施</li> <li>・「回遊・交流ステーション形成事業を展開 *拠点施設として「道の駅」建設</li> <li>・グリーンツーリズムを推進するため地域おこし協力隊制度を活用</li> <li>・地域公共交通網形成計画を今年度策定予定</li> <li>・商店事業継承に向けた「創業支援計画」を今年度策定予定</li> <li>・庁舎再編に伴い、追分庁舎に団体・コミュニティ支援を業務とする組織の必要性を検討</li> </ul>	<p>【団体ヒアリング結果】</p> <p>＜マチおこし研究所＞ 実績ある地域づくり団体であるが高齢化と事業マンネリ化に苦慮（課題）</p> <p>＜NPO法人「ココ・カラ」＞ 地産地消を基本とした地域特産品開発を行っているが、町内実働者が不足（課題）</p> <p>＜社会福祉協議会＞ 高齢者への給食サービスの需要が高まっているものの、ボランティアによる調理・配食であるため、需要に追いつかない現状（課題）</p> <p>＜子育てサポーターの会 ありす＞ サポーターの数が不足。病児保育の需要はあるものの体制的に困難（課題）</p>	<p>【その他町内団体の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会の法人化（挑戦）</li> <li>・あびら交流センターで農産物直売所などを運営する「安平クラスターステーション」の売上げが伸びてきている。（成長）</li> <li>・道の駅に設置予定の農産物直売所に農産物を出品する生産者協議会の議論が進んでいる。（挑戦）</li> <li>・小規模な自治会、町内会からは資金不足による活動停滞が顕著であることが報告されている。（課題）</li> <li>・早来地区の子育て世代が団体を作り、子ども園の園庭整備を独自に行う予定（挑戦）</li> </ul>
---	---	--

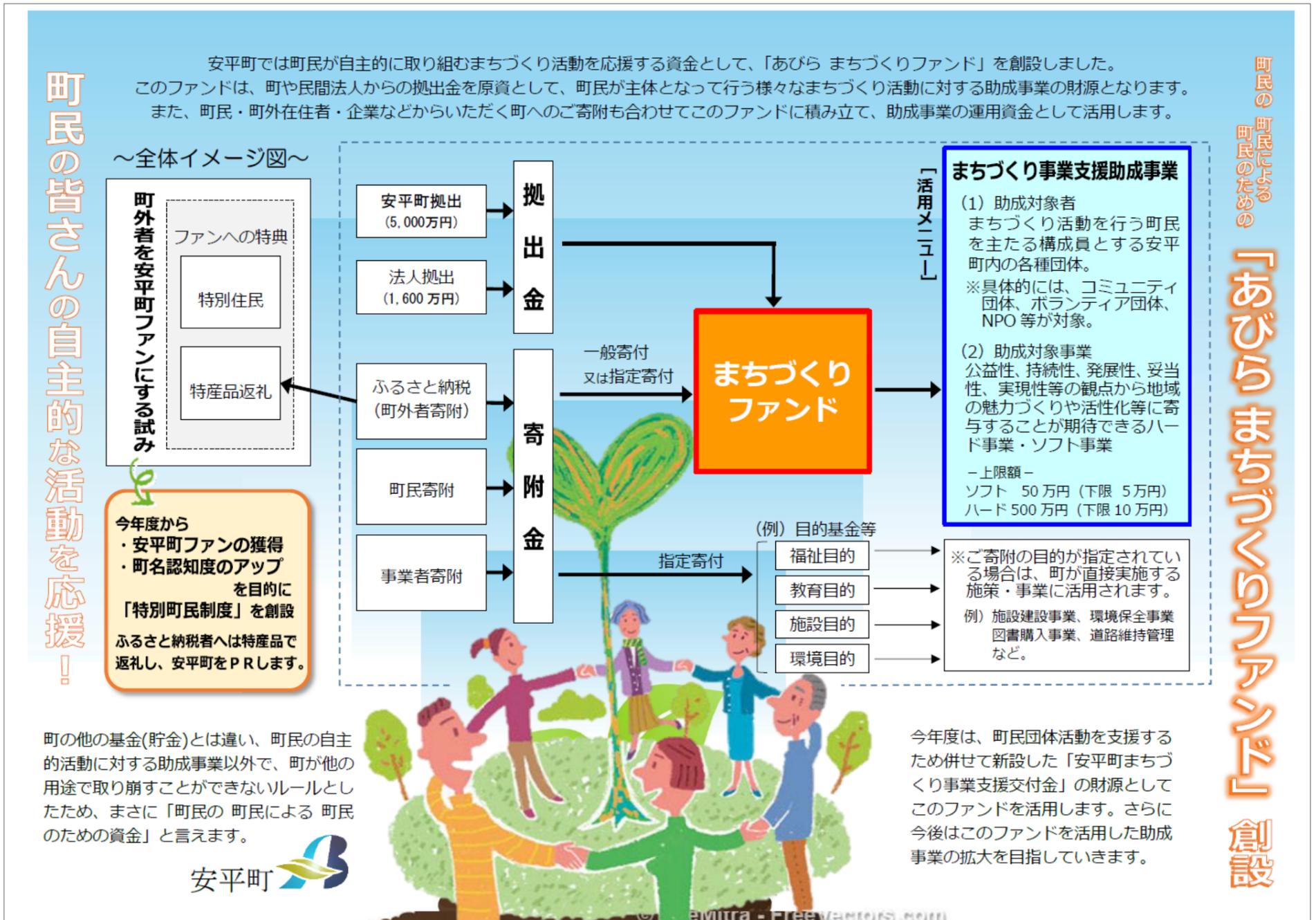
◇コミュニティ・ビジネスについて

地域課題を住民が主体となってビジネスの手法を用いて解決していくための事業をいう。この場合のビジネスは、事業を安定的・継続的に行うために必要な対価を徴収するものとし、その事業効果は、持続的な地域課題解決の推進のために広く地域に還元されるもの。



- 移住・定住促進
- 健康づくり、支え合い・助け合いの環境づくり
- 医療・福祉推進
- 地域公共交通
- 教育、食育、子育て支援
- 地域美化活動、居住環境
- 商店街活性化、買い物対策
- 地域ブランド化、観光の振興、情報発信
- スポーツ、社会教育、文化芸術の振興、歴史文化の保全及び活用
- 環境の保全、新エネルギーの導入その他環境型社会の構築
- 農村都市交流、国際交流、地域間交流

◇安平町まちづくりファンドについて（平成26年度に創設）



平成27年度末のファンド残高 ⇒ 約1億8,000万円

<ソフト事業>

対象事業	交付率	特記事項
地域づくり、ボランティア団体のNPO法人化支援事業	10分の8以内	交付金の上限額は50万円、下限は5万円とする。ただし、対象事業費のうち、飲食に係る費用については、その総額が事業総体経費の10分の4を超えない額とする。
NPO法人の育成支援事業		
地域づくり、ボランティア団体等の育成事業		
地域振興のためのイベント事業		
地域文化の継承・活用のための事業		
地域資源を活用した事業		

<ハード事業>

対象事業	交付率	特記事項
地域団体活動に必要な備品整備事業	10分の8以内	交付金の上限額は500万円、下限は10万円とする。
地域防災・防犯活動等に資する施設整備事業		
地域の会館改修等整備事業		
伝統文化の継承、歴史的施設の保全・活用に資する施設整備事業		
観光振興に資する施設整備事業		
6次産業化に資する施設整備事業		
選考委員会において助成対象と認める事業		

既存の仕組みを拡充し、町民・団体・事業者等を支援

◇総合戦略の策定段階で委員・外部有識者から意見として出されたアイデア（総合戦略資料編に掲載）

**<全体的な考え方>**  
 ○安平町の基幹産業は農業であり、現風景を作り出しているのは多面的機能を有する農業に他ならない。よって「農」をテーマに沿った施策検討が重要。  
 ◇担い手育成、道の駅を拠点とした消費者への直接販売、農業を通じた通年ファーム滞在型観光、農業残渣等を活用したバイオマスエネルギーなどの有効活用、雪室など ⇒ 農業を起点とすることで商業も活性化  
 ○移住定住ターゲットに「50代の終の棲家の検討者」を追加できないか。  
 ○子育て世代を主たるターゲットにしつつ、高齢者の転出抑制もターゲットとしている。将来的な社会保障費の増大などのデメリット回避も検討が必要。  
 ○多様化する価値観に配慮し「ふるさと教育」概念が強制と取られぬ配慮も必要。

**<P33-P36 ①雇用>**  
 ○企業誘致と並行した従業員の住居対策の同時展開が必要（公営住宅・民間AP）。  
 ○民間APの空き家情報が容易に入手できる情報提供のあり方を検討するべき。  
 ○地域ブランドの宣伝効果を上げるため、マスコットキャラクター作りが必要。  
 ○道の駅名物となる食べ物創作が必要。  
 ○国際的に名高い軽種馬生産者へのPR協力要請も必須。  
 ○地域資源（地域産業）を活かした農業関連企業の支援。（岡山県西栗倉村、島根県海士町、徳島県神山町など全国例を検証）⇒有機農業とベンチャー企業のコラボ  
 ○商工業の後継者や新規農業、介護人材など、必要人材（専門職）の全国公募。

**<P37-P39 ②子育て>**  
 ○子育て支援施設の整備にあたっては、新たな施設建設ではなく、公民館や利用頻度の低調な施設を活用し、子どもと高齢者が日常的に集まり触れ合い、学び合えるソフト対策を重視するべき。  
 ○子育てサービス充実を進展させ、子育てが一段落した女性によるビジネス化（企業化や既存団体の活用・NPO法人化）を視野に入れることはできないか。

**<P40-P43 ③教育>**  
 ○追分高等学校存続対策はカリキュラムの独自性を持つ道内事例も参考とするべき。  
 ○札幌市などが実施する中高一貫教育も検討。  
 ○島根県海士町島前高等学校を例に、地域郷土密着型の教育と連携したUターン戦略。  
 ○教育経済負担軽減策として地域おこし協力隊や大学と提携した補習事業の検討。  
 ○高等学校の現状と乖離した施策の展開は避けるべきであり、現場の情報共有が必須。  
 ○早来中学校・追分中学校の生徒が追分高等学校へ進学する仕組みづくり。

**<P44-P49 ④くらし>**  
 ○町職員が営業マンとなり、個人ターゲットに的を絞った営業活動の実践。  
 ○安平町出身者への定期通信など攻めの施策（シングルマザー対象の情報提供）。  
 ○シルバー世代の生涯現役社会としての活躍の場として起業化・法人化の推進（札幌市における託児サービス例など）。  
 ○商業・地域コミュニティ・助け合いを連動する地域通貨概念の活用。  
 ○再生可能エネルギー会社の創設など踏み込んだ施策検討。  
 ○地域コミュニティ活動への町職員積極参加（優れたコミュニティ活動の活性化）。  
 ○終の棲家・終末のあり方を検討する50代を対象とする宗派不問の墓公園整備。

**<P50-P53 ⑤回遊・交流>**  
 ○モニターツアーを通じた新千歳空港利用者に対する1・2時間ルート開発（広域視野）。  
 ○グリーンツーリズムの推進（フットパスやB&B）。  
 ○PFIを活用した宿泊施設の整備（町主導）。  
 ○販路拡大等を目的とした「安平」にちなむ国内外都市との交流（スペイン「アビラ」、長野県飯田市「安平路」）。

**<P54-P56 ⑥情報発信>**  
 ○札幌・東京などに住む安平町出身者の組織化検討（旧町での既存組織あり）。  
 ○「鉄道」「温泉」「ゴルフ」など地域資源に特化したWEB活用によるファン・コミュニティの設置。  
 ○安平町を題材としたショートムービーコンテストの実施。

ゴシック体で標記したアイデアについては、町民主体が主体となり実現した方が効果的と思われる事業

<資料>京丹後市コミュニティビジネスガイドブックより

コミュニティビジネスの事業例(参考)



コミュニティビジネスで地域を元気にしよう!!

健康づくり、支え合い・助け合いの環境づくりその他医療・福祉の推進  
 高齢者向け総合サービス、高齢者のための給食・配食サービス、障害者向け総合サービス、福祉タクシーの運行、移動販売車による買い物難民対策、高齢者の健康・生きがいづくり(高齢者サロンなど)

移住又は定住促進  
 里山・農村部の魅力を市内外に情報発信、都市交流(グリーンツーリズム)や終の棲家としての定住化を促進

安心・安全のまちづくり、地域情報化の推進、地域美化活  
 その他居住環境  
 地域情報誌の発行、地域資源の電子データ化

教育、食育その他子育て  
 青少年向けの野外教室、保育ステーション、子育て支援活動(孤立しがちな子育て家庭への有効な情報提供など)

スポーツ、社会教育及び文化芸術の振興、歴史文化の保全及び活用等  
 歴史的資源を活かした地域づくり

商店等地域産業の活性化及びブランド化、観光の振興、情報発信その他地域資源活用に関する分野  
 地場産品を活用した加工品づくり、地域資源(自然・歴史・文化)を活用したツアー、空き店舗・空き家を活用した地場産品店舗、コミュニティ交流広場、地場産品を使った朝市、農家レストラン

農村都市交流、国際交流、大学連携、その他地域間交流  
 大学との連携による地域活性化実践事業、農家民泊のコーディネート及び体験メニューづくり、地域在住の外国人による交流事業、休耕地を活用した体験交流事業

環境の保全、新エネルギーの導入  
 その他環境型社会の構築  
 家庭廃食油・地域廃油のリサイクル、環境美化活動、地域による再生可能エネルギーを活用した活性化事業



【全国の事例】

◆ おかあさんたちのまちおこし(食事処とギャラリー)

蔵造りの古民家を改装し、地元で採れる旬の魚、野菜を使った「お母さんの味」の食事処、農水産物の加工や手作り雑貨や作品の展示と販売など展開。  
 ここでの主力は70代が多く、子育て・孫の世話が終わった世代が、力を合わせている。  
 無償のボランティアではなく、共同出資し自らも労働者となる運営方式をとることにより、働く者同士が対等な立場で仕事を行うワーカースコレクティブ方式を採用。  
 観光客の誘致にとどまらず、地元高齢者の憩いの場の創出としての拠点となっている。

◆ 本物の有機野菜でのレストラン

農家の主婦により、本物の味を知らない人たちに、本物の味を味わってほしいと、地元の無農薬野菜を利用したレストランと休耕地を耕しハーブや木を植えた花農園を展開。

◆ 誰もが幸せになる地域づくり(福祉有償運送、ファミリーサポート)

障害者の有償外出介助や、拠点病院の玄関先で、車の乗り降りを介助し、家族が駐車場へ停めている間、付き添いをする来院者介助のほか、駅構内での障害者販売拠点を展開。  
 利用会員が生活や外出に困った時に、自発的に登録した協力会員が有償で支援サービスを提供。地域住民が相互に助け合う仕組み。

◆ たすけあいの心と配食サービス

配食サービスは、地域の食材を使用し温かいうちに配達、希望に応じおかゆや刻み食等にも対応。配食を楽しみにする高齢者からは、夕食も配達してほしいとの声がある。  
 助け合い事業では、家事の応援や草むしり、入院中の洗濯などについて支援。そのほか、介護事業としてデイサービスを展開。助け合い事業は、サービスを受ける側と提供する側がともに会員となる。

◆ 海辺を知り・感じてもらうエコツアー

海辺を中心としたエコツアーを展開。自然プログラムでは、海岸漂着物を観察したり拾い集めたりしながら海岸を散歩し楽しむビーチコーミング体験や、無人島の体験、シュノーケリング、シーカヤックなどを提供。各種の体験プログラムを増やしていくことにより、自然資源の経済的価値が高まり、地域の魅力、地域ブランドが向上していく。

◆ 地域に貢献する農産加工店

農産加工店で、農産物に付加価値をつけ販売。地域で食べられているものを商品化。具材などの原材料は可能な限り地域の季節野菜を使用。流通過程で除かれ、畑に捨てられていた野菜が具材に使われる。過疎化が進む集落に住む元気なお年寄りの知恵と技を活かしている。

◆ リユース食器のレンタルでゴミの削減

ドイツの大きなイベントでは使い捨て食器を使わないことを日本でもやろうと、リユース食器レンタル事業を展開。金型・成型によりオリジナルの食器を準備。食器を郵送し、使用後汚れたままの食器を梱包・返送してもらい、洗浄・殺菌・乾燥する。イベント会場では、デポジット方式(容器を返すときに預り金を返金)により、主催者側のリスク軽減と参加者の意識向上を図る。

◆ 都市農村共生

都市住民が中心のボランティアが荒廃農地を開墾し、農園として運営。農地を企業に貸与し、企業の社員が開墾から種まき、草取り、収穫まで行い、指導や日常の手入を地元で行う。企業の畑事業を展開。企業の畑で収穫した農産物はすべて企業が買い取る仕組み。

◆ 廃校を通信高校に

過疎化の進行により廃校となった学校を、インターネットを活用した通信高校として展開。農業体験や地域の歴史などを学ぶ拠点として、全国から集まる生徒と地元との交流の場となっている。年に数回、全国から生徒が訪れ学ぶ「スクーリング」に対応する宿泊設備を完備。

◆ 地域全体が支える森林

林業体験のほか、心身の健康に森林空間を活用する森林セルフケア体験、松からとれるエッセンシャルオイルの製造・販売など、気軽に田舎暮らしが体験できる施設の運営を展開。

◆ 敵を味方に鹿事業

異常に繁殖した鹿により森林や農作物の被害が増加。  
 鹿を捕獲し養鹿・食肉生産・加工を一貫し行うことで安心・安全な鹿肉を提供。鹿のしゃぶしゃぶ肉、鹿肉ジンギスカンなどの商品を開発。

町民主体による地域課題の解決を実現するための体制構築・支援策の整備を重点プロジェクトの柱とする

**安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略**  
**平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証シート**

**安平町 企画財政課**

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

企業誘致PR事業

②事業の名称

主管課	まちづくり推進課	グループ	まちづくりグループ
-----	----------	------	-----------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	雇用	(1)企業誘致の促進と町内企業への継続的支援
<p>・災害時リスク分散を検討するIT系事業者など、道内外の企業に対して当町の地理的優位性や安価な分譲地などをPRし、企業誘致の促進を図ります。</p>		

④事業概要・目的

<p>・新千歳空港や重要港湾苫小牧港に近接する当町の地理的優位性を活かした新規企業の誘致を実現するため、主に首都圏企業をターゲットとした工業団地分譲PRを行う。</p>
<p>・新聞広告 計9回                  ・ダイレクトメール(タグ作成)                  ・キャンペーンチラシ作成ほか</p>

⑤事業費(計画額)	1,553,000 円
-----------	-------------

⑥事業費(実績額)	1,545,190 円
-----------	-------------

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

具体的商談件数:3件

⑧本事業終了後における実績値

具体的商談件数 5件

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■商談件数には、実際に旧公共施設を企業が活用し、創業へ至った2件も含まれているものであり、④に掲げた事業によって商談(相談)があったものは3件であり、またこれらについては、誘致へは残念ながら至らなかった。</p> <p>■北町工業団地は、道道への大型車両の出入りに難があるため、最終的な立地へ結びつかないという要因がある。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■企業誘致PRでは工業団地の立地条件に沿ったターゲットの絞込みを行っているが、従業員の移住が伴うケースが多く、分譲地の情報だけではなく、生活情報、観光情報などオールインワン化した情報発信が必要である。</p> <p>■平成28年度は厚真町との連携による『地域特性を融合した多様な「はたらき方」と「田舎暮らし」のプロデュース』と題し、戦略的な企業誘致活動に必要な既存企業の取引先を調査(商流分析)を行い、立地企業の関連企業にターゲットを絞って企業誘致PRを実施する。</p> <p>■なお、企業誘致から起業誘致へと事業展開をシフトしていく必要があると認識する。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>  
 ■平成28年度は加速化交付金を活用し、商流分析などを通じた効果的PRを実施するとともに、これらを近隣自治体(厚真町)との広域連携で実施する。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

地域ブランド化推進支援事業

②事業の名称

主管課	まちづくり推進課	グループ	まちづくり推進グループ
-----	----------	------	-------------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	雇用	(2)地域資源を活用した地域ブランド化支援と新たな産業創出・起業支援
------	----	------------------------------------

・地域資源を活かした新商品の開発や商品化、宣伝普及活動等を行う企業等への支援を通じ、地場製品の付加価値の向上(ブランド化)に取り組まみず。

④事業概要・目的

・優れた地域特性に起因する独自性の確立及び地場製品の付加価値の向上を図るため、地域資源を活用した新たな商品の開発や商品化、宣伝普及活動等に取り組む町民・町内企業等に対し支援を行う。

・助成金(上限500千円、下限50千円、交付率10/10ただし販路拡大に係る経費は4/10を上限額)  
 ・交付決定に当たっては、審査会を開催

⑤事業費(計画額) 1,040,000 円

⑥事業費(実績額) 490,720 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

地域資源を活用した新商品創出: 2件

⑧本事業終了後における実績値

地域資源を活用した新商品創出 1件

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■平成27年度は1件(アサヒメロン組合によりアサヒメロンブランド価値向上事業)にとどまってしまった。</p> <p>・プロモーション動画の作成 ・パッケージデザインの統一                  ・購入形態の多様化に対応する小分け用ギフト箱の開発</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■事業の必要性と意義に疑問は生じないものの、本助成事業の認知度が向上しない現状にある。</p> <p>■広報やHPでの宣伝に加え、商品開発基礎講習など、開発段階に入る前のノウハウを取得に係る機会を提供するなど、ブランド化推進に向けた全体的な流れを整理する必要がある。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

(空欄)

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■平成24年度の制度創設以降、新たな商品開発で事業効果を上げており、平成27年度は1件にとどまったものの、平成31年度にオープン予定の「道の駅」の目玉商品開発など、事業の必要性は今後も高まることから、事業の継続が必要であると判断している。

■上述で記載した課題のとおり、今後道の駅で販売する新特産品開発に向けた制度体系の再構築を検討したい。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

交流人口拡大事業

②事業の名称

主管課	まちづくり推進課	グループ	まちづくり推進グループ
-----	----------	------	-------------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	回遊・交流	(1)回遊・交流ステーション形成事業の推進
------	-------	-----------------------

・観光振興策として、旅行代理店との連携による町内モニターツアーを実施し、新千歳空港から15分で広がる北海道らしい風景を楽しみたい観光客をターゲットとした町内・周辺観光ルートを選定や外国人観光客の受入れなど、新たな取組みを進めます。

④事業概要・目的

・交流人口の拡大を図るため、外国人観光客の受け入れを進めるとともに、旅行代理店と連携を図り国内のモニターツアー等を実施する。

・外国人旅行者受入事業  
・モニターツアー委託

⑤事業費(計画額) 1,543,000 円

⑥事業費(実績額) 502,564 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

外国人旅行者受入客数(対前年度(77名)比):20%増  
地域内観光ルートを選定数:3本

⑧本事業終了後における実績値

外国人旅行者受入客数(対前年度(77名)比) ▲100(%) = 0名  
地域内観光ルートを選定数 2(本)

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■首都圏ベンチャー旅行代理店が平成24年度から継続してきたタイ人観光ツアーが燃料費の高騰などにより平成27年度中止となったため、外国人旅行者受入客数の評価指標が達成できなかった。</p> <p>■モニターツアーの実施を通じた観光ルートを選定では受託企業の事業趣旨の理解が不足していたため当方が期待した専門ノウハウに基づく助言が得られず、3ルート開発とした評価指標が2ルートにとどまった。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■外国人旅行者を受け入れる前段として、受入環境整備とマーケティングの必要性を痛感するとともに、これに基づく旅行代理店への売り込みの必要性を痛感している。</p> <p>■モニターツアーの実施にあたっては、入札による契約ではなく、提案型のプロポーザル契約が適切であると考えます。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■平成29年度は観光庁事業等を活用した来訪外国人客受入環境整備事業の実施に向け、事業予算化を図ることとしたい。

■観光ルートを選定の前段で必要となる平成28年度のモニターツアー実施にあたっては、旅行代理店による事業提案によって委託先を決めるプロポーザル方式により契約を行う。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

定住人口拡大事業

②事業の名称

主管課	まちづくり推進課	グループ	まちづくり推進グループ
-----	----------	------	-------------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	くらし	(1)移住・定住施策の推進
------	-----	---------------

・既存の定住促進助成制度の効果検証とともに、U・I・Jターン希望者を主なターゲットとした町内企業に就業する若者と雇用企業の双方に対する連動支援策の創設など、新たな定住促進対策の検討に取り組みます。

④事業概要・目的

新規定住者の増加に資するよう、移住・定住PR活動、移住体験事業を実施するとともに、新たに町民となる者等が将来にわたり引き続き町に生活基盤を置くことを促進するための施策として、新規住宅建設者、新規就農・商工業者等に奨励金を支給する。

・移住体験ツアー、移住定住PRパンフレットの作成、移住定住促進フェアへの参加  
 ・住宅建設奨励事業、転入奨励、転校準備金、結婚祝金贈呈事業、新規就農、新規商工業、後継者奨励事業

⑤事業費(計画額)

9,188,000 円

⑥事業費(実績額)

6,361,669 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

具体的移住希望者相談件数： 10件  
 住宅建設を伴う新規転入件数： 5件

⑧本事業終了後における実績値

**具体的移住希望者相談件数： 14件**  
**住宅建設を伴う新規転入件数： 4件**

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■住宅展示場へのPRチラシの設置。各種メディア媒体や新たな試みとして札幌地下鉄車内広告を活用するなど、PR活動を行っており、相談件数は目標を達成しているが、実際に住宅建設まで至る顧客の獲得には至っていない。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■町営分譲地の残区画に、ニーズにマッチした優良物件(日当たり等)が少ない現状にある。                  ■また、合併以降、町の知名度が向上せず、まちの魅力を町外の住民に十分に伝えられていない。                  ■千歳市、苫小牧市が大規模に造成する宅地では、区画面積を小さく分譲販売しているため、安価な坪単価で広く分譲販売する当町と価格差が小さくなっていることから、価格の優位性が薄れている現状にある。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■現代の子育て世代は、将来不安から中古住宅ニーズ等も高まっており、従来型の移住定住・住宅建設奨励のみならず、中古住宅住み替え施策など、多様化するニーズに対応した戦略が求められている。

■平成28年度は町の知名度向上戦略、PR戦略、多様化するニーズへの対応を意識し、国の交付金を活用したホームページリニューアル化を図るとともに、中古住宅の住み替え促進をねらいとした住宅リフォーム制度の対象要件拡大を検討する。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

新規就農対策事業

②事業の名称

主管課	農林課	グループ	農政・畜産グループ
-----	-----	------	-----------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	雇用	(3)新規就農者対策
------	----	------------

・多様な作物が生産される町の主要産業である農業の後継者等育成を図るため、新規就農相談から移住、就農研修、就農に至るまでを、地域や民間団体との連携により総合的に支援します。

④事業概要・目的

・農家人口の減少及び後継者不足による農業者の高齢化及び耕作放棄地の増加問題を解消するため、新規就農者の受入体制構築のための各種奨励金・助成金の充実を図る。

・体験実習奨励事業、就農研修生奨励事業、営農指導費助成事業、新規就農者奨励事業、就農相談参加事業、アサヒメロンブランド継承事業

⑤事業費(計画額)

3,265,000 円

⑥事業費(実績額)

2,243,893 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

現研修生の継続:2人  
新規研修生の受入:3人

⑧本事業終了後における実績値

現研修生の継続:5人  
新規研修生の受入:4人

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■既存農家の協力体制構築により、研修生が挫折することなく就農に向けて継続していることは大きな評価であると考えます。</p> <p>■また、首都圏で行われる就農相談会へは、行政職員とともに協力農家が参加し、新規就農希望者に対し直接相談を行うこととして以降、新規研修生の獲得数が増加していることも大きな評価である。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■農業者の高齢化が著しく、更なる新規就農者の獲得が喫緊の課題であり、その危機感を官民で共有し、一体となった対応が求められている。</p> <p>■当町の新規就農対策では、就農開始時に直面する様々な苦難を精神面・作業面から共に信頼し支え合える家族の存在を重視し、そのターゲットを農業に憧れを抱く首都圏の家族世帯に絞る必要があり、就農支援策の充実と併せ、農業へ従事する助成の仕事と出産・育児の両立が可能な環境整備が課題となっている。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■平成28年度より子育て農業女性(アグリウーマン)の育児と仕事が両立できる環境を整備するとともに、従来の新規就農対策を深化させ、官民一体の組織体制を構築し、「官主導型」から「地域・農業者一体型」による経営者と生活者の視点を組み込んだ対策の充実を充実に向け、取組みを深化させる。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

地域内教育振興対策事業

②事業の名称

主管課	教育委員会事務局	グループ	学校教育グループ
-----	----------	------	----------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	教育	(3)地域内教育振興対策(道立高等学校振興)の推進
------	----	---------------------------

・地域内の高等学校の存在が子育て世代の移住・定住先の選択要因の一つとなることから、学校存続に向け、道内私立大学の指定校推薦枠や高い地域内就職率を特色としてPRLし、入学希望者の確保に取り組みます。

④事業概要・目的

・子育て世代をターゲットとした定住施策の展開には、地域内教育機関の存続、教育内容の充実、進学・就職率の向上が求められていることから、定員に対する入学希望者の確保に資する地域内教育振興会の取り組みへの支援等を実施する。

・学社融合事業や地元企業団体と連携した特色ある教育の推進及び生徒数確保に係る事業を展開する。(各種検定、受検料補助、通学助成、学校諸費助成については、高等学校教育振興会を通じた個人への間接補助)

⑤事業費(計画額)

8,979,000 円

⑥事業費(実績額)

8,523,939 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

追分高等学校受験希望者数(対定員比率):90%以上  
新3年生における進路決定率:100%

⑧本事業終了後における実績値

**追分高等学校受験希望者数(対定員比率):100%**  
**新3年生における進路決定率:100%**

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■平成22年度より1間口となった町内唯一の高校である北海道追分高等学校を存続させるため、官民一体となった取組みにより、平成28年度入学者は定員を確保できたことに加え、本年春の卒業者の進路決定率が100%となったことは一定の評価である。(地元の誘致企業会の尽力が大きい)</p> <p>■施策として平成27年度より実施した町内スクールバスの運行により町内中学校からの進学率が向上している。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■対策が功を奏し、道教委が定めるH29-H30年度の「公立高等学校配置計画」では追分高等学校の間口減(廃校)は免れたものの、学区内の子どもの数が減少するなか、今後も取組みを強化する必要がある。</p> <p>■道立学校であるため、自治体の考えと高等学校の考え方に差異が生じぬよう、不断の協力体制・意思疎通を図るとともに、これら一体的な活動の町民PRが必要。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■平成28年度は前年度の継続となるが、官民一体となった協議会による取組みが効果をあげ、平成28年度入学者は定員である40名を確保したことから、今後も地域内に唯一の高等学校の存続に向けた取組みを推進する。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

地域公共交通確保対策事業

②事業の名称

主管課	企画財政課	グループ	企画グループ
-----	-------	------	--------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	くらし	(6)地域公共交通体系の再編
------	-----	----------------

・多くの町民に利用される地域公共交通を目指し、鉄道・路線バス・タクシーなど民間事業者による交通機関の維持・確保、商工会が運行するデマンドバスの利用促進を含めた町全体の地域公共交通体系を再編し、生活維持に必要な「町民の足」を確保します。

④事業概要・目的

・買い物弱者・通院者の利便性を確保するため、町商工会が運行するデマンドバスと連携して運行される町内4市街地縦貫バス路線の運行事業者補助を実施する。

・自宅－拠点市街地間で町商工会が運行するデマンドバス  
・4市街地間で民間バス会社が運行する循環バス

⑤事業費(計画額)

21,878,000 円

⑥事業費(実績額)

20,734,973 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

地域公共交通のうち町が独自に実施するデマンドバス・循環バス年間利用者数:6,900人

⑧本事業終了後における実績値

地域公共交通のうち町が独自に実施するデマンドバス・循環バス年間利用者数:5,267人

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■デマンドバスの登録者と利用者は、徐々にその数を伸ばしているものの、縦循環路線として民間バス会社の運行を補助している循環バスの利用者は大きく減少している。</p> <p>■その要因は、循環バスの運行が民間バス会社の営業路線の延長であるため、利用ニーズの無い時間に走行させている、又はそもそも日常生活で早来・追分間を移動するニーズがないなど上げられるが、その分析はできていないのが現状</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■利用者が減少している反面、アンケート調査において地域公共交通の満足度は低く、重要度は高いという結果が出ており、ニーズに対応した可能な限りの改善策検討が求められている。</p> <p>■こうした現状にかんがみ、JR・民間バス・ハイヤー・デマンドバスのほか、教育委員会が運行するスクールバスなど、地域内で運行されているすべての公共交通を効率的に活用できないか検討していく必要がある。</p> <p>■さらには、民間事業者へ配慮しつつ、自家用有償運送などの検討も必要。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■平成28年度、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく地域公共交通網形成計画の策定に着手することとした。

\* 地域公共交通網形成計画とは:コンパクトシティの実現に向けたまちづくりとの連携地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築(H28年度に計画策定、H29年度実証実験、H30年度から計画に基づく再編を予定)

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

中心市街地にぎわい創出事業

②事業の名称

主管課	まちづくり推進課	グループ	まちづくり推進グループ
-----	----------	------	-------------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	くらし	(5)商業の振興
------	-----	----------

・商業の振興を目的とした街中拠点施設の活用によるイベント事業の開催支援のほか、町民の市街地への滞留や賑わいをもたらす、商工会が取り組む事業展開、店舗誘導策等を支援します。

④事業概要・目的

・商店街の活性化に資するよう、新規顧客の獲得を目的とした拠点施設を活用した定期的なイベントの開催に対する支援を実施する。

・町商工会が実施するイベント事業への補助及び拠点施設を活用したイベント開催団体への助成(得々市実行委員会補助、街中拠点施設活用事業支援助成事業)

⑤事業費(計画額)

1,020,000 円

⑥事業費(実績額)

929,602 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

拠点施設を活用したイベント回数:2回

⑧本事業終了後における実績値

拠点施設を活用したイベント回数:3回

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■評価指標は達成しているが、単発イベントであるため、市街地への滞留や賑わいをもたらす効果は、限定的であり、こうした機会を活用した連動施策が必要であると考えます。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■イベントを契機とした各個店による連動施策を期待するが、商店主の高齢化によりその気運が高まらない現状にある。</p> <p>■単発イベントであるため定期(月例)開催できる仕組みづくりが必要(〇〇市の開催など)</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■当該助成事業は継続しつつ、併せて後継者への継承策や空き店舗を活用した起業の促進策を強化し、商店主の若返りを図るため、総合戦略に記載した「創業支援計画」を平成28年度に策定し、創業支援を推進する。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業

②事業の名称

主管課	企画財政課	グループ	企画グループ
-----	-------	------	--------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	—

④事業概要・目的

・雇用の創出、知名度の向上から交流人口拡大を経て若い世代の定住人口拡大へと繋げる安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する。

・未来創生委員会の開催(有識者会議)  
 ・町民町外アンケートの実施  
 ・ワークショップの開催

⑤事業費(計画額)

1,600,000 円

⑥事業費(実績額)

955,916 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

平成27年度中の地方版総合戦略の策定

⑧本事業終了後における実績値

平成27年度中の地方版総合戦略の策定完了

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
<p>■民間コンサル会社に委託せず独自に策定を行ったことから、人口減少の現状を分析したことにより、課題・問題点を明らかにすることはできた。また、現総合計画や町長マニフェスト、町政執行方針との整合性を図ることができた。</p> <p>■しかし、これまでの政策・施策・事務事業の実行によっても人口減少が進捗する現状においては新たな発想が必要でありながら、地域の強みを活かした新たな政策・施策・事務事業の企画立案が少なかったことは反省すべき点である。</p>	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
<p>■将来展望人口数値に対し、平成27年国勢調査速報数値が下回っているため、将来展望人口の下方修正が必要であるとともに、施策の磨き上げが急務である。</p> <p>■現在策定中の第2次安平町総合計画との連動性を意識し、必要に応じて改訂を行う必要がある。</p>	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>

■第2次安平町総合計画の策定内容に対応した施策の見直しによる改訂を行うものとする。

平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

①事業の名称

公共施設等の再編・集約による子育て支援サービス・行政サービスのワンストップ化事業

②事業の名称

主管課	総務課	グループ	総務グループ
-----	-----	------	--------

③総合戦略での位置付け・5か年重要業績評価指標(KPI)

施策分野	子育て	(1)子育て支援施設の整備促進と充実
・分散する追分地区の幼児保育・教育施設等を既存公共施設の再配置・活用により統合し、認定こども園、放課後児童クラブ、子育て支援センターを併設した「児童福祉複合施設」を整備します。		

④事業概要・目的

・追分庁舎を住民サービス機能を当該地区の保健・福祉・介護活動の拠点である既存施設へ移転し、遊休化する庁舎を町内に点在する町立幼稚園、町立へき地保育所、民間保育園、児童館及び子育て支援センターとして再活用する。 めくもりセンター改修工事 【内部修繕、外部修繕、電気設備工事・機械設備工事】 ・現児童館部分を、行政サービス提供ルームとして改修
--

⑤事業費(計画額)

41,040,000 円

⑥事業費(実績額)

38,523,600 円

⑦本事業における重要業績評価指標(KPI)

施設維持経費縮減	▲13,500千円
5施設の集約(統合)	⇒2施設へ

⑧本事業終了後における実績値

**施設維持経費縮減 ▲13,500千円**

⑨自己評価と課題

自己評価	当初KPIと実績値を踏まえた事業の評価を記載
■平成28年6月5日をもって追分庁舎をめぐもりセンターの遊休空間に移転し、今年度中に旧追分庁舎の改修により、町内に点在する町立幼稚園、町立へき地保育所、民間保育園、児童館及び子育て支援センターとして再活用する予定。 ■公共施設のあり方が問われる中、既存公共施設を有効活用した機能集約はイニシャルコスト軽減とともに将来的なランニングコストの軽減に大きく寄与するものである。	
課題	事業を継続する場合における課題を記載
■将来的な行政効率の観点から追分庁舎機能を早来庁舎へ集約するため、人口3,500人の追分地区住民には「行政サービスが低下するのではないか」という不安感があることから、これに対応した組織機構のあり方を継続して検討する必要がある。 ■平成29年4月の公私連携による追分地区認定こども園の開設に向け、運営団体となる民間法人との協議を加速させる必要がある。	

⑩未来創生委員会(外部有識者)の意見

⑪自己評価・課題・外部有識者意見を踏まえた事業改善ポイント

<庁舎内協議段階での改善ポイント>  
 ■追分庁舎の人員を概ね20名程度とし、住民協働・コミュニティ活動支援を主体とした組織を追分地区に設置するなど、ハード事業に併せた住民配慮策を講じるものとする。

安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略  
平成27年度 地方創生先行型交付金事業の評価・検証報告

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	企業誘致PR事業	基礎交付	1,304,100	指標①	具体的商談件数	3	件	H28.3	5(件)	地方創生に相当程度効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	従来型の企業誘致の手法を見直し、起業促進にシフトさせる時代が来ている。	追加等更に発展させる	◇加速化交付金を活用し、商流分析などを通じた効果的PRを実施するとともに、これらを近隣自治体との広域連携で実施する。 ◇創業支援計画を今年度策定予定
				指標②										
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
2	地域ブランド化推進支援事業	基礎交付	480,720	指標①	地域資源を活用した新産品創出	2	件	H28.3	1(件)	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	商品開発⇒マーケティング⇒ブランド化を体系付ける必要があるのではないかと	事業の継続	◇H24の制度創設以降、新たな商品開発で事業効果を上げており、平成27年度は1件にとどまったものの、今後も当該事業の継続が必要であると判断。 ◇道の駅建設に伴う特産品開発を次年度実施予定
				指標②										
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
3	交流人口拡大事業	基礎交付	472,564	指標①	外国人旅行者受入客数(対前年度(77名)比)	プラス20	%	H28.3	▲100(%)	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	インバウンド受入体制の構築が必要ではないかと	事業内容の見直し(改善)	加速化交付金を活用し、観光協会の法人化による体制強化とともに、視点を変えたモニターツアーの実施による域内観光ルート開発に着手する。なお、インバウンド戦略は再構築を検討。
				指標②	地域内観光ルートの選定数	3	本	H28.3	2(本)					
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
4	定住人口拡大事業	基礎交付	5,277,136	指標①	具体的移住希望者相談件数	10	件	H28.3	14(件)	地方創生に相当程度効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	戦略的プロモーションを標榜しながら横断的対応が見られず、「知名度が低い」という課題への取組が必要。集合住宅に居住する若い世代を最終的に定住させる仕組みが必要	事業の継続	◇加速化交付金を活用し、町公式ホームページの移住者専用ページをリニューアルするとともに、これらを近隣自治体との広域連携で実施する。 ◇遊休地を活用した小規模宅地提供を推進する。
				指標②	住宅建設を伴う新規転入件数	5	件	H28.3	4(件)					
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
5	新規就農対策事業	基礎交付	1,973,973	指標①	現研修生の継続	2	人	H28.3	5(人)	地方創生に非常に効果的であった	総合戦略のKPI達成に有効であった	特に無し	追加等更に発展させる	加速化交付金を活用し、子育て世代新規就農希望者の獲得に向けて事業を深化させている。
				指標②	新規研修生の受入	3	人	H28.3	3(人)					
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
6	地域内教育振興対策事業	基礎交付	8,283,989	指標①	進分高等学校受験希望者数(対定員比率)	オーバー90	%	H28.3	100(%)	地方創生に非常に効果的であった	総合戦略のKPI達成に有効であった	現在行われている事業が「子育て世代に選ばれる」という観点で新たな子育て世代を呼び寄せる訴求力を持つかどうかの視点が必要。中長期的な戦略検討が必要ではないかと。 * 鳥根県立隠岐島前	事業の継続	◇官民一体となった協議会による取組みが効果をあげ、平成28年度入学者は定員である40名を確保したことから、今後も地域内に唯一の高等学校の存続に向けた取組みを推進する。 ◇総合計画に高等学校について位置付ける。
				指標②	新3年生における進路決定率	100	%	H28.3	100(%)					
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										

